

昭和二十五年三月十日發行

附錄 三原產業案内

三原地誌觀光觀



1950

Mr. Ichiide

真田

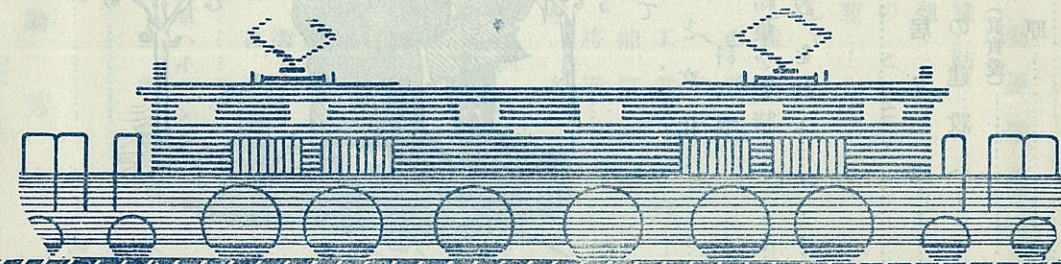


蒸氣・電氣機關車・貨車・臺車・空氣ブレーキ



中日本重工業 株式會社 三原車輛製作所

三原市糸崎町5007番地 電話 { 三原440番 糸崎140番



人造絹絲製造

資本金 貳億五千萬圓

三原市圓一町一八三四番地 三原局私書函第壹號



帝國人造絹絲株式會社三原工場

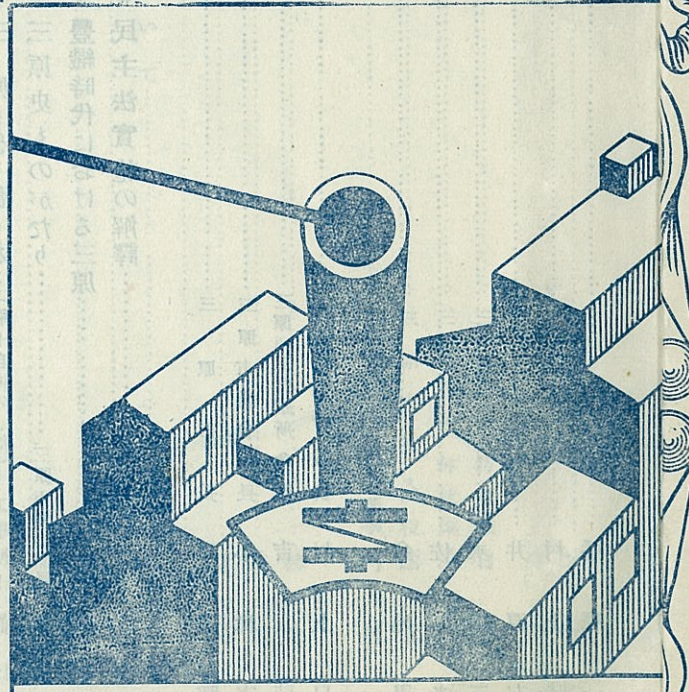
電話 自三五〇番至三五四番
受信略號(ミハラテイジン) 發信略號(テ)又ハ(テジ)

工場長 山邊 万龜夫

本社 大阪市西區江戸堀南通一丁目
東京支社 東京都中央區日本橋室町四丁目(近三ビル)
廣島工場 廣島市南千田町
岩國工場 山口縣岩國市大字今津

工場
工場代表者 三原市糸崎町五、三一〇番地ノ六
電話 糸崎局第 三五番

創立 昭和七年十月
事業品目 ポルトランドセメント製造
月生産能力 九千百瓩
本社 東京都中央區日本橋人形町一ノ一
代表取締役 社長 井上英熙
資本金 七億圓



日本セメント株式會社糸崎工場

麻絲紡績 並ニ織染加工一般
羊毛紡績

資本金 壹億五千萬圓

三原市城町六〇二番地 代表 電話五〇番



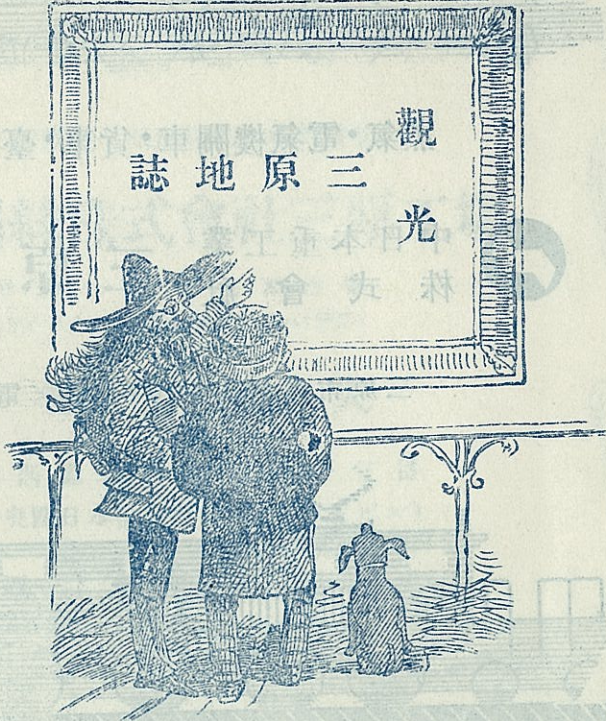
東洋纖維株式會社三原工場

常務取締役 工場長 木村 大藏

本社 東京都中央區日本橋室町二ノ二
本社分室 廣島縣三原市城町六〇二番地

取締役社長 川角 五郎

工場 八代工場・尾道工場・彦根工場・能登川工場



觀光

三原地誌

◎觀光三原地誌發刊に寄せて

- ◎三原建設と文化
- ◎政治と科學
- ◎商工業者の結集を要請
- ◎三原市建設を想ふ

◎隨想錄

- ◎三原文化
- ◎觀光と芝居と三原
- ◎健康都市の建設へ
- ◎子供教育(眞實愛)
- ◎煙草と三原
- ◎和田沖干拓の將來

次

- ※表紙 繪 向井秀男 畫
- ※三原市鳥瞰圖と三原の歌
- ※觀光三原の解説
- ※三原名所寫眞
- ※三原おとめ
- ◎卷頭の言葉 廣島大學三原分校主事 林頼二郎 六
- ◎三原を觀る (郷土自慢の一節) 工學博士 眞田秀吉 一五
- ◎三原史ものがたり 三原市圖書館長 藤原覺 一七
- ◎豐織時代における三原
- ◎民主法實施の解説 大木幾馬 三

- 三原市長 戸田勝巳 四
- 三原市議會議長 小林憲一 二四
- 三原商工會議所會頭 吉永龍次郎 二五
- 廣島縣會議員 村上昌衛 二五
- 金尾覺 一六
- 佐藤光男 一七
- 永田三六 一七
- 井原友夫 一八
- 村上雄元 一八
- 播磨一雄 一八

◎産業の躍進を目指して

- ◎服裝美へ
- ◎三原市の交通運輸
- △大火の豫防
- △農業斷想
- △市財政のこと
- △名産分葱
- ◎商業繁榮策の一つ
- ◎車輛製作の將來
- ◎都市農業への近道
- ◎セメント工業
- ◎農業災害補償制度について
- ◎鐵工業の將來
- ※みなと糸崎

◎興産茶話集

- △陸運海運經濟座談會
- ◎興味ある三原市の民動向
- ◎御存じですか、三原讀本
- ◎監査委員制度について
- ◎郵便局の廣告業務
- ◎三原の柔術
- ◎中小商業者の立場
- ◎三原と魚
- ◎保健と觀光・三原ハイキングコース
- ◎官公私立市内諸學校
- ◎三原俳壇
- ◎御贊助芳名簿
- ◎編輯後記
- ◎附録・三原産業案内

- 三原市消防署長 日野俊二 三
- 三原市農林技師沖原良人 三
- 三原市收入役西原直三 三
- 木原農業協同組合長理事内 英俊 三
- 徳永源吉 三
- 井上義吾 三
- 新部有藏 三
- 田部實藏 三
- 新宅實藏 三
- 七寶實藏 三
- 岡崎貴補 三
- 石原見三 三
- 平原春夫 三
- 二井岩正 三
- 久保吉正 三
- 三原八景・糸崎小唄・職場探訪記

- 短歌 向井秀男 四
- 詩 向井秀男 四
- 三原八景・糸崎小唄・職場探訪記

- ◎附録・三原産業案内 (目次別紙)

卷頭の言葉

廣島大學三原分校 主事 林 禮二郎

舊隴中國地區五大學の教育學部の學部長と分校主事とが、廣島大學の圖書館樓上の一室に會合して協議したことがあつた。その協議も一應終つて晝食の仕度が出来たのを待つ小半時、私は今住んで居る三原分校主事官舎の自慢をして、「みはらしがい」といつた途端に、上席で他の學部長と要談して居られた櫻井學長が一寸頭をこちらに向けて、「左様、三原市がいよ」と半疊を入られたので、一座の者は誰彼の別なく大笑いしたことがありました。

なる程考えてみれば、三原市は北山の住宅街などから瞰下した瀬戸内海の島々の眺めは絶佳で、實に恵まれたい、土地であります。その上全國都市で目星しいものは大半戦災にあり、その復舊に血眼になつてゐる日本の現状に立つて、われわれの三原市をみれば洵に住みよい有難い都市だと申さねばなりません。

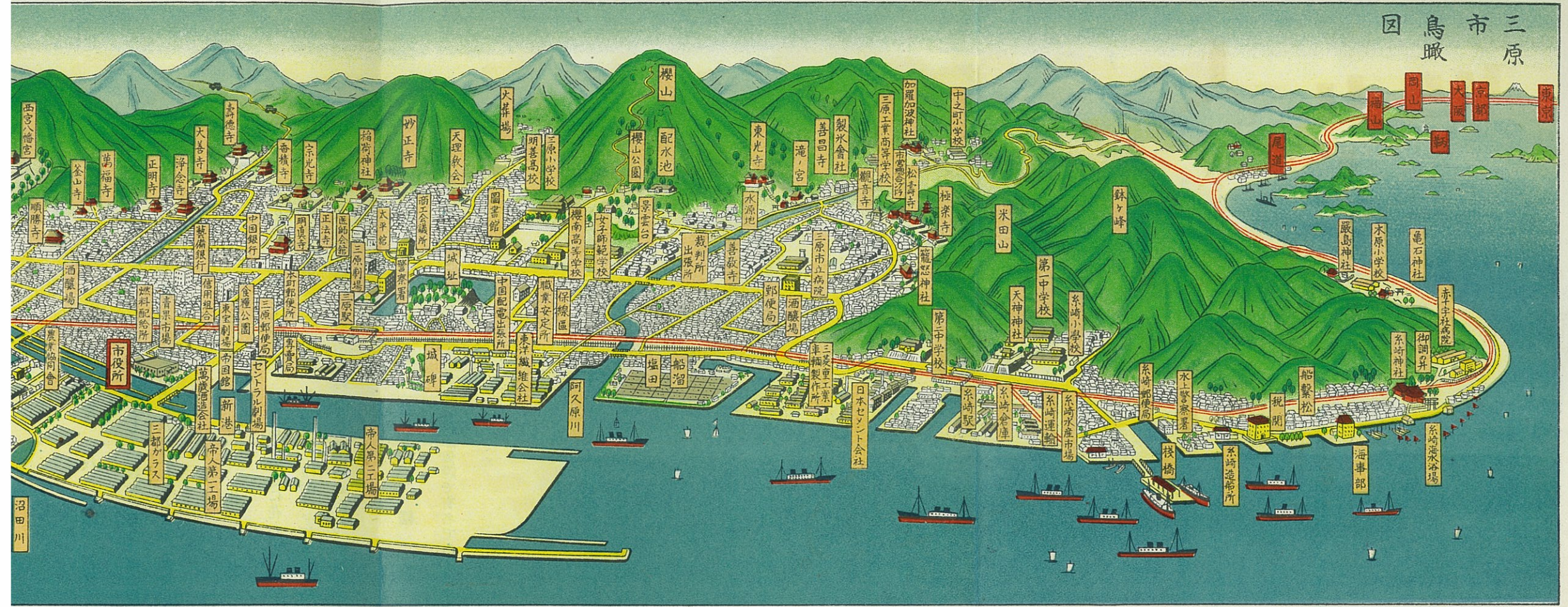
然し、日本の再建は文化國家となることでもあります。この立場即ち文化都市としての三原市は現在果して住みよい、住み甲斐のある都市であるかどうか、吾々は三省してみなければならぬ。尙三原市は産業都市であつて廣島縣下大工場中、それも精々八工場位しかないのに二つ乃至三つの大工場は當三原市にあるように聞いて居ります。この意味で縣下有数の都市で現在ありますが、將來この面でも、「い」とこであるように、又そうするにはどうしたらよいか、或は觀光都市としては如何、交通的には如何、研究前進してよい幾多の問題があります。東備の一大都市として尾道市、福山市に遅れをとつてはなるまいし、或る意味において連絡提携し三つの連鎖都市としての發展も大いに期待してよいと思ひます。

こゝに唯一一つはつきり斷言出来ることがあります。それは三原市民は「三原市で商賣する、仕事をする」といふことである。商業でも、工業でも商賣すれば儲かるし、物をつくれれば引合ふような、そいふ都市として三原市を建設せねばなりません。市民の一人一人が住みい、街であるかどうかを眞剣に検討してみたいと思ふのであります。

要するに、山の手からの眺望がいよ、ように、この街に住む誰でもが三原市を住みい、生活の樂園とする方式は色々あると思われませんが、果してその何れを優先したらよいか、これは關係當局、商工會議所其他この街に住み、この街で仕事をしてゐる者全体に課せられた大きな問題であると思ひます。吾々は他都市の古い眞似事に易易としてゐては食つてゆけない、それは三原市を滅ぼすことだと奮起して、新しい觀念の下に努力の一步を踏み出そうではありませんか。

◇ ◇ (觀光三原地誌發刊を祝して) ◇ ◇

三原市鳥瞰図



み出そうではありませんか。

(観光三原地誌發刊を祝して)

三原市歌

作詞 難波春水

- 一 朝日に映ゆる 櫻山
瀬戸内海の 眞帆片帆
天地明るく 水清く
眺めつきせぬ わが三原
- 二 増産はげむ 工場の
眞理華咲く 科學陣
意氣も逞しく 新しき
使命果さん わが三原
- 三 新日本の 黎明を
告ぐる自由の 鐘の聲
飛躍邁進 建設の
響とどろく わが三原
- 四 平和の歌に わく希望
民主日本 朗らかに
高き文化を うち立てん
理想大なる わが三原

三原小唄

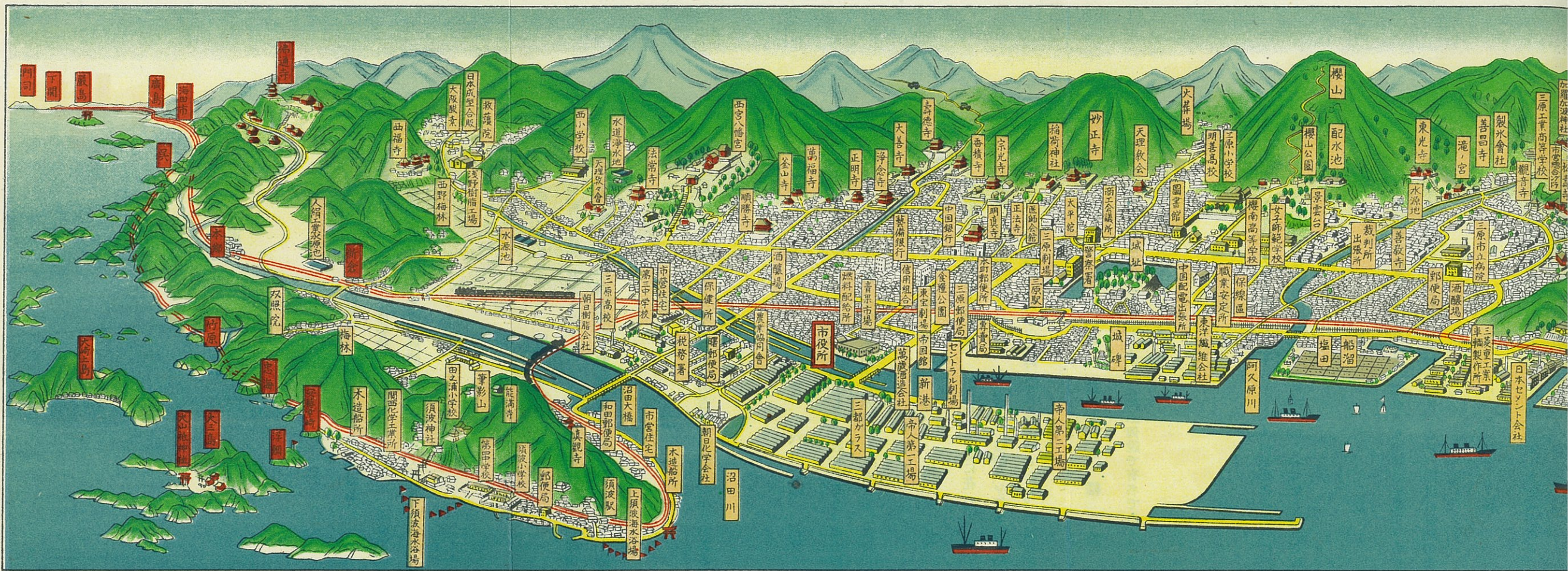
作詞 白鳥省吾

ハア、三原よいとこ 町まん中に ヨイトサツサ
昔しのばす 昔しのばす ヨホイノホイ
城のあと ヤンレンソレ ヤンレンソレ
駒もいとしや 恵下谷道を
運ぶ丸太に 運ぶ丸太に
月が射す
三原港に 灯のつく頃は
眞帆も片帆も 眞帆も片帆も
寄つてくる

三原ヤツサ踊

作詞 野口雨情

- 一 あの娘可愛や
あの眼が可愛
- 三原葡萄の
粒のよな
- 二 しぐれ松さえ
君には靡く
眺めうらしい



飛騨道 刺影の

四 平和の歌に わく希望

響とどろく わが三原
民主日本 朗らかに

高き文化を うち立てん

理想大なる わが三原

※三原小唄

作詞 白鳥省吾

ハア、三原よいとこ 町まん中に ヨイトサツサ

昔しのばす 昔しのばす ヨホイノホイ

城のあと ヤンソソレ ヤンソソレ

駒もいとしゃ 惠下谷道を

運ぶ丸太に 運ぶ丸太に

月が射す

三原港に 灯のつく頃は

真帆も片帆も 真帆も片帆も

寄つてくる

※三原ヤツサ踊

作詞 野口雨情

一 あの子可愛や

あの眼が可愛

三原葡萄の 粒のよな

二 しぐれ松さえ

君には靡く

眺めうれしい

西の宮

三 西のかえりは

誰でも知れる

袖に梅が香

髪に花

※糸崎民謡

一 備後糸崎 忘れてならか

舟も港の 岸につく

三原糸崎ア 軒つゞきでも

まゝに通うて 逢わりやせぬ

誰と別りよか 松濱あたり

二 夜明鳥が 鳴いてゆく

汲めどもつきせぬ 御調の井は

今も昔も かわりやせぬ

風に吹かれる 八幡様も

楠の木でさえ 潮風に

三原觀光

◎三原城址

「見ても見事な三原の城は、地から湧いたか浮城か」
三原城は永録十年天下の智將と呼ばれた一世の豪雄、小早川隆景が海賊操従の大雄圖を抱いて築城したもので、黒川小島の城、玉壺城の異名があり、當時三原灣内の大島小島を連ねて築いたものと言われる。今は雉堞、望樓も崩壊して漸く城跡の一部に名残を止めてゐる。

◎櫻山城址

「松の緑に櫻を交せて、町の誇りは櫻山」
三原驛の北方「ピラミット型」の奇勝、即ち櫻山である。龜山院文應文永の頃、山名權左衛門の居城と言われ、山頂より内海の絶景を一眺に收め、四國連山を望む。山麓は遊園地で頂上まで遊歩道を設けて、風致地域として顯彰に努めつゝある。

◎妙正寺

三原城址の北にあり、城主淺野家の菩提所で代々の墳墓がある。城樓を超えて三原灣を望み、その雅景は楊子江畔の三淵五湖を想わせる。

◎西宮八幡宮

市の西部にあつて、神域は遊園地としての設備があり、春の櫻、秋の紅葉は特に喜ばれ行樂の人々で賑ふ。その景観は地方の名物となつてゐる。近く大規模の角力場が建設されると云ふので、更に異色を加えることになる。

◎西野梅林

「西野かへりは誰でも知れる、袖に梅が香髪に花」
往時は水邊山畔、梅で埋まり、その香は三原瀬戸を行き交ふ船に傳えたと言われる。昔公西遷の途次植えたもので、六瓣の花を開く。山陽來遊し、芭蕉の句碑は昔を物語つてゐる。遊園地として保存顯彰が希まれてゐる。

◎糸崎八幡宮

神功皇后西征の途次寄艦際の貢水と言ふ傳説で有名である。所謂長井水は今境内にあり、西に船繫松がある。境内古蹟に滿ち、讚豫を遠望して絶佳である。

◎筆影山

市内より眺めて筆を横にしたようだと詩人が筆影山と名付けた。海拔八百尺の頂上に五十餘戸の農家があつて、名産三原牛旁を産出してゐるのは有名である。平家の落人がこもつたと傳えられ、内海を一望に俯瞰して遙かに四國を望み見る。

◎鯨島

木原町の沖合にある小島である。祠があり、鯨神を祀る。小さな洞穴があつて小舟を通せる。毎年十二月より正月まで鯨がこの島に來ると言われ、これを年頭鯨と呼んでゐる。附近は好適の海水浴場である。

◎鉢ヶ峯

靈峯八ヶ峯の頂上に虚空藏菩薩を祀り、満米上人の墓がある。傳説によると上人六道の閻魔王に出遭い米を鉢に貰つてより還元するまで米のきれたことがない故をもつて、満米と言ふ。萬一米がきれた場合は、鉢自らが海上の舟に行つて米を受けて來ると言ふ。或る日千石舟を觀音寺前に繫ぐと、鉢が舞ひ下りた。舟頭が干鯛を投げ入れたところ、舟は海中に沈没したと傳えられる。

◎船山

神功皇后三韓征伐下向の砌り繫舟された舊跡で船山と呼び、錨山がある。今も古松十數本を残し岩礁があるが、周圍は埋立てられ美田と化してゐる。

◎天神山公園

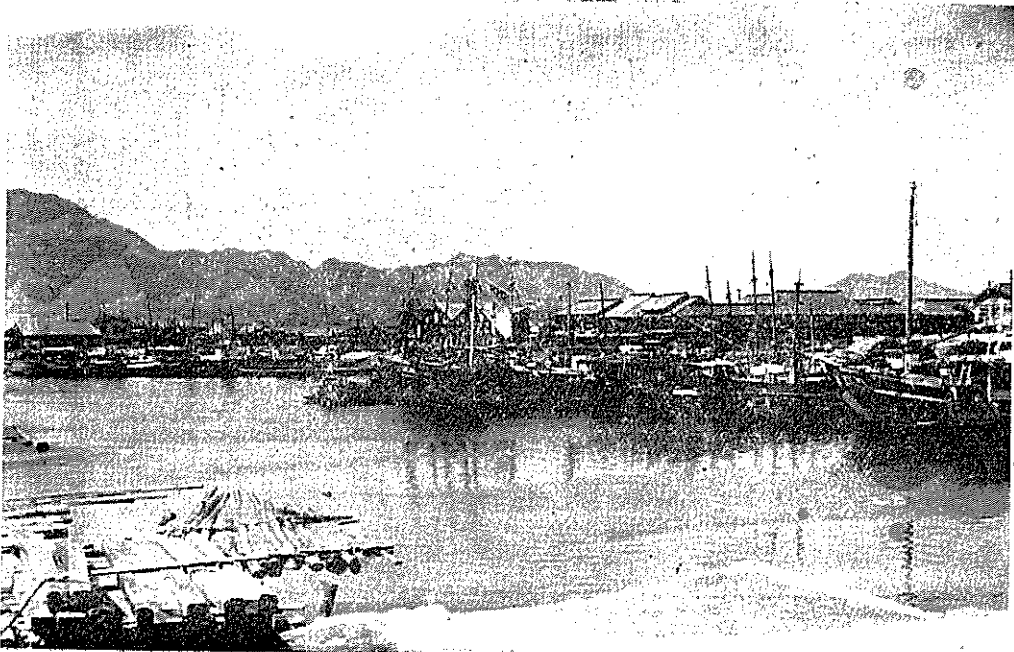
昔江洲膳所藩浪人村上兄弟は亡父の仇敵を討たんとして流浪中、三原に來て園内天神社の靈驗を聞き、參籠祈願七日遂に仇の居所を知り本望を遂げたとする傳説がある。老松鬱蒼として景観の地である。

◎眞觀寺のつつじ

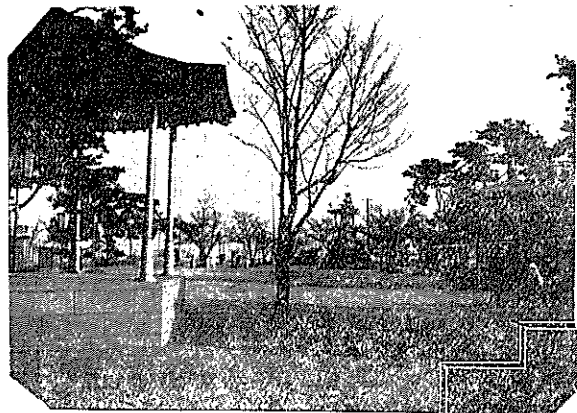
延寶年中僧峰山榮の岳の愛玩したもので、幹の周圍一尺六寸、東西一六尺、南北一八尺に幡まり、高さ七尺に達す。この地は觀月の名所として杖曳くものが多い。



櫻山より三原市を窺む

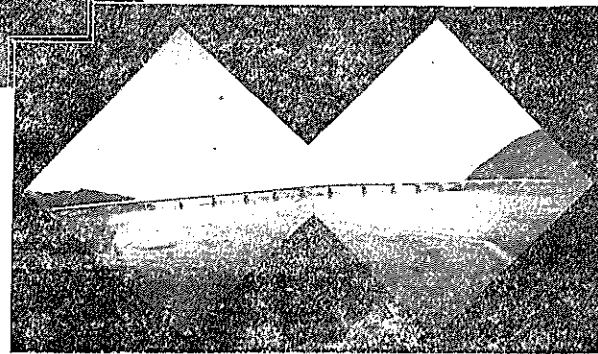


三原港



西宮公園

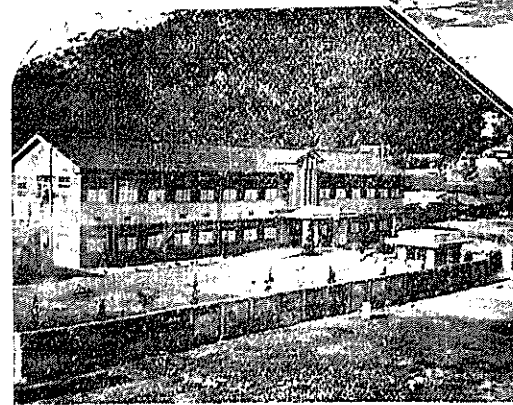
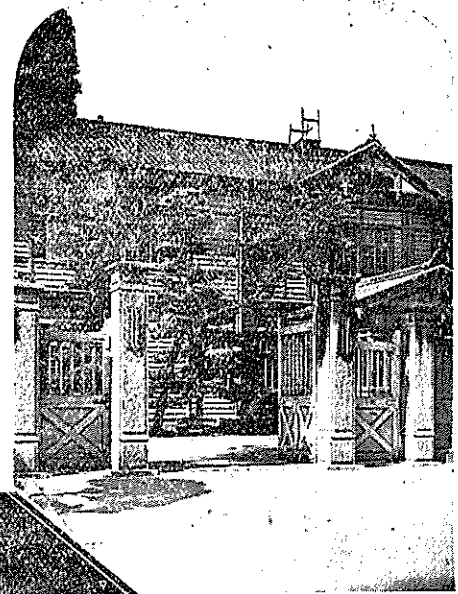
西宮神社の境内に在つて、春は櫻、秋は紅葉の名所として著名、市街を一望におさめる



沼田大橋

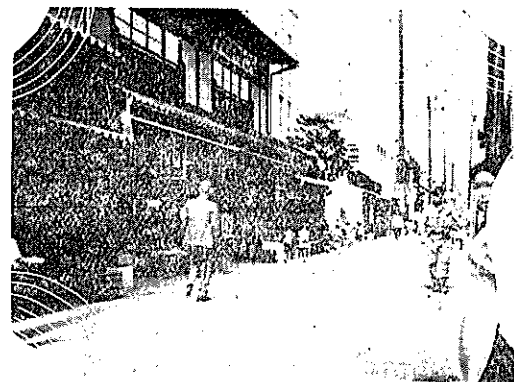
清流沼田川に架橋、延長320米、鉄筋コンクリート造り、附近の眺望絶佳である

国立広島大学教育学部三原分校
(旧三原女子師範学校)



三原中央病院本館

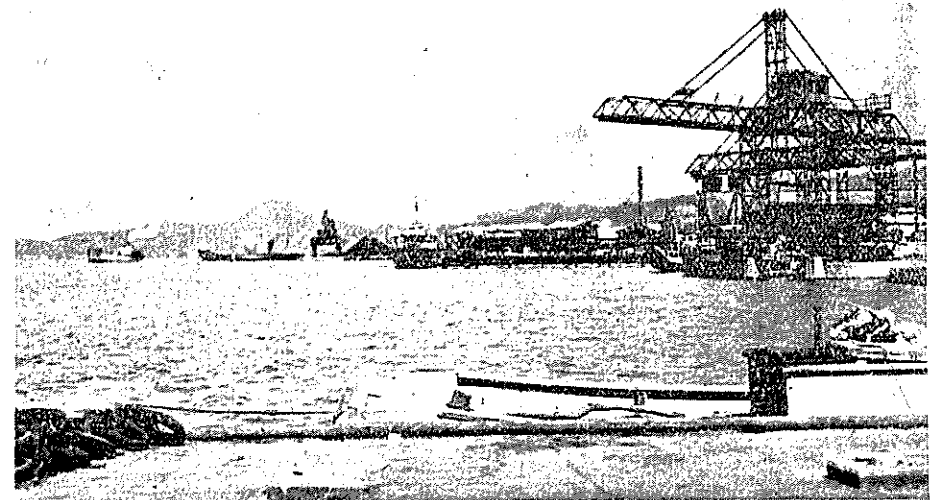
近代醫學の殿堂、施設完備、刀圭界の權威陣を布く



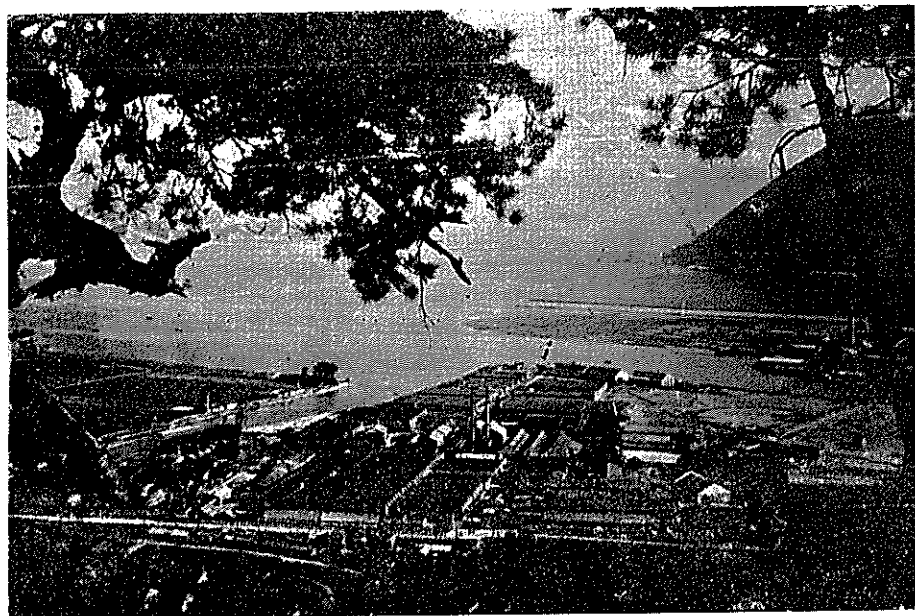
帝人通り



三原市本町通り



糸崎港



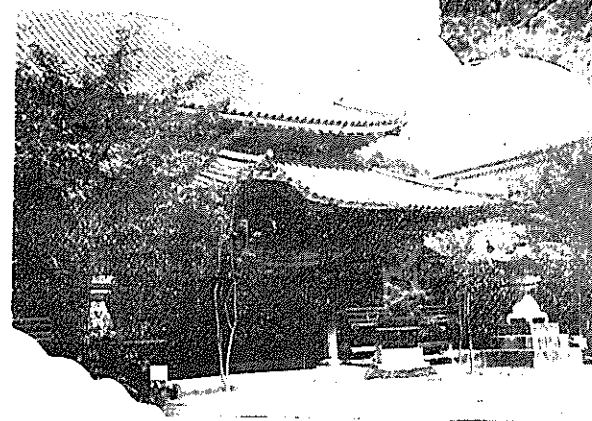
東洋纖維株式會社三原工場



中日本重工業株式會社三原車輛製作所

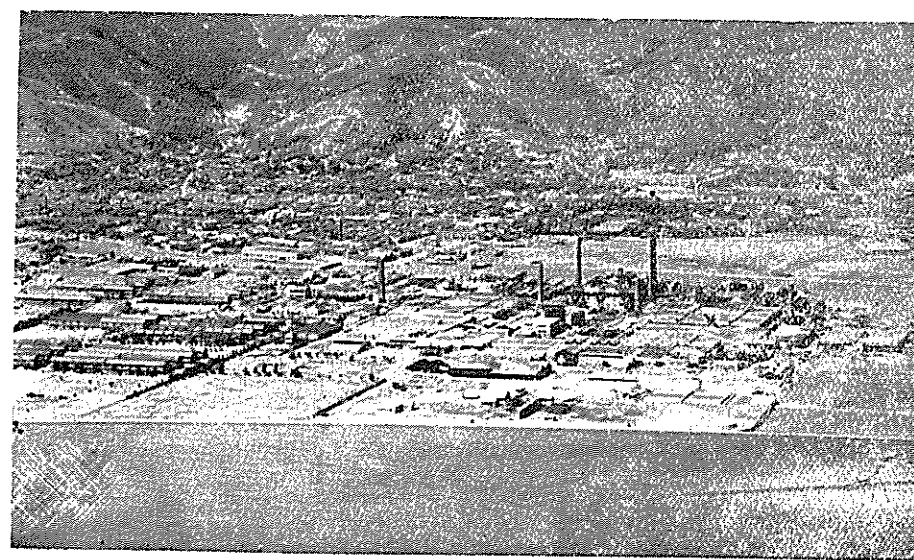
三原城址

「見ても美事な三原の城は
地から湧いたか浮城か」
三原城は永祿十年、小早川隆景の築造
したもの、今は城址の一部を遺し公園
として市民に公開している



妙正寺

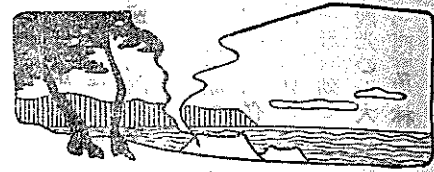
日蓮宗の古刹で城主淺野家の
墓所、遙に城樓を越えて
三原灣を望むあたり、山陽
道第一の景觀として、古來
名士の寄題詩が多い



帝國人造絹絲株式會社三原工場を望む

三原を觀る

郷土自慢の一節



氣候溫和風光明媚陸物産豊かにして、人情篤く生活に樂なところは、山陽道に於ては廣島縣特に三原附近を最とする。

幸なるかな、吾々は此地に生を享けた事を感謝しなければならぬ。私が推して日本一とする名物に三原城あり、雙鷺洲及糸崎を中心とする風光あり、西の月の瀬と稱せられた西野梅林あり、清酒あり、

豊かな海鮮がある。最近のものとして日本一大なる人絹工場あり、織維工場あり、車輛製作工場があり、セメント工場あり、皆夫々の分野に於て其の雄を誇るに足るものである。

然し乍ら吾々は徒らに舊時の盛榮を忍んで、日新改善を忘れてはならないけれども、舊時の良所のみは残し、否復興することは觀光三原の探るべき道であろう。由來觀光には俄か仕立の新物では駄目であつて、歴史的背景を必要とする。

先づ糸崎より見た海上の景色は、今に至るも絶佳であつて、文政七年梁川星巖が彼の有名な雙鷺洲の詩を詠じて以來一躍有名になつた。詩は

詩酒還爲半日遊 此生隨處送悠悠
他年夢裏問陳迹 細雨春帆雙鷺洲

文政七年星巖三十六才、三原藩士都筑藩門丹羽子諱等と糸崎に遊びし時の詩(註)洲は島のこと。

この詩が余りに有名になつたので、爾來此地に來遊するものは、皆此詩句を用ひて咏するようになった。

醫博士入澤達吉君先年來遊の際の詩に次のがある。

細雨春帆半日遊 客中詩酒足風流
百年陳迹留佳話 羨殺高人梁鷺洲

坂本鈺之助君は

工學博士 眞田秀吉

客程詩思怕秋風 細雨春帆夢亦空
雙鷺何遊洲樹遠 星巖陳迹夕陽中

一昨二十三年四月私等同志相謀つて、糸崎前鷺洲自慢の地に詩碑を建てた。碑表には星巖自筆の此詩を刻し、裏面に星巖と三原との關係を簡単に述べ、觀光上に一物を添へた次第である。

神宮皇后渡韓の際の御調井は糸崎八幡社境内にあり、舟梨松は其西一丁の路傍にある。樹は枯れて今は株のみを残してゐる。今回國道擴張の際修理を加へて道路の中央に存置し、一名勝とすることに建設省の了解を得たがこれは年内完成の筈である。

次に梅林についてみるに、明治維新前迄は東野西野は勿論、山中にも多數の梅があつて、文人墨客の三原に來遊するものは、必ず先づ梅のことを語り、梅は三原の代名詞となつて居つた。就中西野の梅林は著名である。

又妙正寺の眺望は絶佳で、眼下にお城が水に浮んで見え、櫻山を左にし、前に高い巖壁上に白壁の長櫓や數々の高櫓が聳え、之を取巻くお堀に潮汐出入して、大小の鮮鱗游泳するの景觀を始めとし、畑の山鷺島遠く糸崎迄の島々の間に、眞帆片帆の往來するを眺めては眞に夢か幻かと疑はる景である。

三原最大の誇は何を措いてもお城であつたのである。私はこれに最も親しみを感じ、特に昭和二十二年十二月、天皇陛下が殘壘上の浮城寮に

御駐泊になつたことについては、感慨に堪えないものがある。

△三原城懐古

三原城は今から三六八年前、即ち天正十年小早川隆景公の築造に係り慶長二年公の六五才で薨去せられるまで、十数年間の居城で、後に櫻山を負ひ前は多島海に臨み、水陸の要衝を占め、居然中國四國の諸侯を睥睨して三原灣内の一巨観であつた。玉壺城と稱し、俗に浮城と呼ぶ。

公は左衛門佐又は三原中納言と云ふ。豊太閤の信任最も厚く、其駕を迎へるために造營し、所謂金の間は本丸御殿奥の二室で、結構壯麗を極め、國寶的存在であつたが、惜しくも明治二四年取こわれ、二六年本丸中央を貫き山陽鐵道を布設し、今残存してゐるのは天主臺と海に突出してゐた東南隅の櫓臺のみである。元禄二二年二月七日
天皇臨幸の御、右櫓臺上の浮城寮に御駐蹕になつた光榮を想ひ、亦公の當時を追憶し、私の幼時小學校教室として使用してゐたのが基本殿及び金の間であつた。

これを追懐して、迂拙を顧みず一詩を賦した。

堅城臨海負櫻山、
粉堞畫樓今何處、
碧潮涵郭朝暮灣、
聖皇昨辱幸、
殘墟日暮空相想、
泉下英雄亦開顏、

△觀光三原への希望

一、城趾保存

城の本丸其物の遺跡は十百の石碑や文章よりも、三原の象徴として一層有効である。この實物を残し、此の上に櫓樓長廊を復興して、觀光の一大目標としたい。

一、西野梅林 現在は著しく荒廢してゐるので、短區域でも梅樹を

補植し、且つ芭蕉句碑も茲に復置したい。西福寺に梅桃多數を植え車中より眺め得るようにするも妙である。

一、妙正寺

妙正寺境内附近に櫻楓を多數補植して觀光に情趣を添える。

一、沼田川堤

沼田川堤を一連の櫻堤とし、三原新名所としたい。

櫻山は延元の昔、櫻山茲俊が勤王の旗擧をしたと傳へられる名山であるから、石碑を建て、は如何か、又この山は全山拂下を受け(林野廳當局了解濟)市の公園として、登山道を修理し、山上に休憩所を設けて四時賞遊に便にしたいものである。この麓景雲臺附近には櫻を補植して景色を添える。

△西宮公園

西宮相撲場附近一帯の公園化は望ましい。

△史蹟顯彰 現在史蹟に指定せられてゐるのは、三原城趾、西野梅林があるが、此の外糸崎の御調井や船繋松附近も、妙正寺淺野家墓地も、宗光寺山門其他偉人烈士の墓等も編入したいものと思ふ。

△八幡社及佛通寺へ通ずる觀光道路 八幡社は由緒古く老櫻多く附近隨一の宮居であるから、之に通ずる道路を改修してよい。佛通寺も三原附近の名勝で同様希望したい。

△宗光寺山門及正法寺の大般若經

この山門は小早川隆景公が、三原に築城の時、本郷の高山城々門を移したものと云はれる古建築物であり、正法寺も公が沼田より移したもので、その大般若經六百卷は宗人謝復生が弘安年間寫した珍本である。

右二點は優に國寶の價値ありと稱せられるので、其の筋に國寶指定の請願交渉をせなければならぬ。

△其の他のこと

川口家秘藏の佛通寺開山愚中禪師の畫像の幅と自筆の一書幅及觀音寺の十一面觀音像も國寶に値するものと云はれる。

三原觀光地誌發刊に當り、意見を交えて斷片觀光記を寄せたが、このことに對しては、市、商工會議所、文化協會、圖書館その他關係者が一臂の力を貸して國寶運動に、著名の顯揚に努力して貰ひたいものである

三原史のぐたり

序

今から二千數百年前は現在の沼田東村、西村附近に海水がはいつていて本郷あたりまでが沼田川の河口になつていたやうです。河口に臨んだ入江の靜かな海が、今で、そこに集つた人達は、海山のさちを自由にこつて氣樂な生活ができたやうでしょう。次第に人が集つてきました。

その後數百年たつて西日本からひろまつてきた水田耕作法は、この地方の砂州をびらいた住民達に喜んで受け入れ、いよいよ人口集密の度を加えてきたやうです。かようにして沼田地方は紀元一世紀前後には小部落酋國を形づくるやうになつた。傳えられます。こんな部落酋國は各地方にできて、互に勢力を争つて一六七年前後日本全土にわたつて大戦亂が起つたのです。この渦中で沼田地方の支配者土家は悲惨な運命をたどらねばならなかつたでしよう。丁度その頃、よくその勢力をもち上げてきていた大和地方の豪族達は連合して全國統一に手をのばしはじめ、三世紀頃には明らかに成功のいきどろちがみえています。沼田地方の先住豪族はこの混亂の中で壊滅したのではないでしようか。四世紀頃には新しい勢力がこの地方を支配してはいたやうです。

現在沼田地方に残つていられるおびただしい古墳は二世紀中葉から起つた古墳文化時代のこれら支配者の墳墓の遺跡であると思われまふ。しかし我々は、この豪勢な支配者の生活に幻惑されてはいただけではないので、これらの生活を成就した當時の住民の势力的な文化作業をみまねねばなりません。山なす墳墓の一つ一つはすべて當時の農民の手によつて築かれたと云ふ事實であります。

六四六年中央集權が組織的に確立されて以後沼田地方の支配者は次々中央から任命され、又或る時は地方の豪族が自力をもつて支配權を僭奪したこともあり、上代から平安朝時代を経過しますが、一般人民はどんな生活をしていたのでしよう。歴史の表面からは抹殺されていますが、歴史の文化を受けついだ眞の擔い手は彼らであつたのです。

一)

沼田の入江で農民達が女小供総出で巨大な岩石を運び土を積んで小山のやうな豪家の墓を造つていた頃から千年余りたつた頃、伊豆の僻地小早川の地から年若い武士が鎌倉幕府の命を受けて沼田地方の領主となつてやつて來ました。彼は土肥茂平といつて、本郷高山に居城し、後姓を小早川と改めました。それから三百年のち中國の覇者毛利元就の第三子隆景が小早川家のあとをつぐことになつて、一五六七年現在の三原の地に築城しましたが、これがそもも今日の三原市を生むことになつたのであります。

小早川隆景が三原の浦わに大小の島をつないで浮城を築いた當時は糸崎三原の沿岸にはまだ人家も殆んどなく夕方には漁火が二つ三つ淋しい

風景をつづけていた位でしよう。米田山、櫻山の裾は波に洗われ、沼田川の河口も新倉のはるか向うまで入り込んでいて蛤やあさりも拾へたこととす。

隆景がこの地に根城をきめた理由は、ここが要害の地であることと、その頃既に強大な勢力をもつていた内海水軍を懐柔する戦略的意圖があり、あわせて當時勃興した海上貿易の經濟的な地の利を得る目的があつたとも思われます。既に自由港尾道が繁榮の途についているのをまのあたりに見て、隆景は武力によつて一氣に經濟力を掌握せんと夢みたくもしれません。

三原は元來陸にとざされ海にひらけてあります。糸崎から須波に至る

海岸線には通り路はなく、單にこの邊の海に出る道路として本郷から沼田川に沿うて出る道と、阿久原川に沿うて深、山中を連絡する道があつただけです。それ故にこの地方の東西の連絡は山中から西野を三原の背後の山道を行く位で、安藝、備後を結ぶ東西の公道からはみすてられていました。これと反對に海は自由な大道であつて、その上三原水道は潮流に乗つて九州大阪を結ぶ大航路筋であり、尾道より一層有利であります。更に又干潮の潮流は大島、大崎島の二島を繞りて燈灘に出ると伊豫の高繩半島に直通できるのです。かつて芦田川下流文化が四國と交流した船路を十三世紀以來尾道商港に奪われた感がありましたが、小早川隆景は通商交誼によらず來島の水軍根據地をはじめ、藝豫海峡に蟠居する水軍を一手につかんで政治的軍事的攻略を畫策していたにちがひなく、又かように三原の地は有利な要衝であつたわけです。

然しながら隆景も封建武士の血をひいた一英雄主義者に過ぎなかつたようです。十三世紀以來擡頭した民主勢力は、土地經濟から貨幣經濟へと移り變りつつあつた時勢の中で次の時代を見とすことができなかったのです。隆景に若し先見の明があつたならば三原を海港として住民のために開放し、立派に築港していたにちがひない。彼の城塞は、單にその一門郎黨のための花鳥風月をたのしむ高どのであり、個人の榮華を満足させるための戰略的突堤に過ぎなかつたのです。

彼の雄圖はある程度達成されたかもしれませんが極言すれば後世に何もも残さなかつたのです。十七世紀初頭徳川幕府確立によつて封建制は再編成されましたが、民主勢力の發展はいながたく歴史の現實を無視することはできなかつたのであります。

一六〇〇年關ヶ原の戦以來小早川家は防長に移り、同時に福島正則が藝備の領主となり、その子正之が三原城を守ることになりました。正之失脚後一六一九年徳川二代秀忠の時淺野長晟が藝備藩に封ぜられ、國老淺野忠吉が三原に居城することになつて十二代二百五十年間徳川政治滅亡まで續いていたわけでありました。

(四)

以來、初代渡邊庄三郎氏、二代八原昌照氏、三代木島茂氏、四代の現市長戸田勝巳氏と歴代の市長は市政に献身的な努力を續け創業日の淺い初期大業の困難を克服して今日の大三原市を建設しつづつあることは喜ばし



織豊時代の三原

三原がクローズアップされた織豊時代

三原が、最も華かな様相を呈して、歴史に登場するのは、織田豊臣氏の時代であります。

小早川隆景は、毛利元就の三男でありながら、迎えられて、天文二十年十月十三日、沼田本郷高山城に入り、小早川の本宗を繼ぎましたが、本郷は海岸より遠く、彼の雄大な經略を行うのに不便でありましたので、三原灣岸の良津、三原の地に、いつの頃よりか設けられた、小早川氏の支城を、漸次、その政治軍事の策源地とするようになりました。

隆景は、戰國の武將として、傑出した人物で、豊臣秀吉によつて、「天下の蓋」であると評された程ですから、彼が、毛利氏の最も有力な部將として、父の元就、甥の輝元を助けて、毛利氏を、中國十ヶ國の太守にまで、もり立ててゆく過程に於て、三原は、ようやく、世上の注目を浴びる要地として成長しました。そして、毛利氏の勢力が伸び切つていた天正十年ごろ、隆景が、三原灣上に浮ぶ大島・小島の二島をつらねて、當時の築城技術の粹を盡して、本格的な平城を、この地に築き、商人をまねいて城下町を形成するに及んで、その繁榮は、極點に達しました。

築城以前の三原

三原城が築造される遙か前の、鎌倉時代末には、正家というすぐれた刀鍛冶が、この地に住んで、名刀を鍛えていましたし、足利將軍義滿が死んだ年に當る、應永十五年には、三原津太守左京助家徳というものが、高麗(朝鮮)王に使をやつて書を致し、交易を求めている位ですから、その頃、三原が、もうかなりな聚落であつたらうことも想像されますが

世界のいづくの國も同様に、中世期都市の發達は、物資交易の中心地であるか、又は領主の居城をとりまいて生れ出るものです。三原の町は後者に屬するものです。

小早川隆景がこの地に城廓を造營してからはじめて三原に城下町ができました。地勢の關係で町は東西に二分され、東は阿久原川の下流に川沿ひの交通路と海港をひかえた通運をもつていち早く町の繁榮を促して行きました。一方西は沼田川の下流に本郷を通ずる道路と西野から奥にはいるけわしい山道とで交易の通路をもつて行きましたが現在の西町の位置は城の外廓がそこまで延びており、最初期は河口の埋立地域もなかつたので東町よりもずつと遅れてできたのです。三原の發展は蓋し沼田川砂州の埋立と糸崎港の築港に起因するといわなければなりません。

淺野家の入城後一六二二年最初の干拓頼兼新田ができ、次に一六四四年横山新田が干拓され、次に一六七四年糸崎港に接する天神新田が、更に一七〇〇年廣大な宮沖新田と東町の塩田が開かれ、その後ずつと下つて幕末一八六四年商港として松濱港が開拓されました。現在の糸崎市街地はかくして生れたのです。維新後は明治八年皆賀新田を、同十一年圓一新田を、大正になつてから渡邊新田、勝田の埋立と次々に起工されて今日に及んでおります。

(五)

明治以後三原の發展は山陽線の開通にともない二十五年、二十六年の糸崎驛、三原驛の設置と良港糸崎の海運を外廓にもつたことに發端があります。更に大正六、七年干拓地帯に大工場の設立がその後の好況と相まつて俄然大都市の相貌を備えることになり、遂に昭和十一年十一月三原市を中心にして糸崎町、山中村、西野村、豊田郡の田野浦村、須波村の六ヶ町村を合併して大三原市の市制がしかれることになつたのです。從來の商業都市に工業地帯を加えその上農山漁村を含めての廣範な産業地域は將來の三原市を約束するものといわなければなりません。昭和二十四年七月現在人口五三、五七五を擁した三原市、この上は天然の良港三原築港の完成と停車場の擴張とを決定して交通網の整備と市區改制が出来上り、優に國際都市としての品格を示すことになるでしょう。市制施行

い限りであります。

一九四五年曠古の大戦に敗戦後の今日三原市は幸に災禍をまぬかれたことを祝福して將來の發展を刮目して待ちたいと思ひます。

筑紫申眞

勿論、まだ、市街を形づくるまでには、行つていなかつたのです。

毛利・小早川氏が、だん／＼四方に經略を行うようになつて、永祿十一年の春には、伊豫の河野氏を助けて、同國大洲城主宇都宮豊綱を攻め降しますが、その際、毛利氏は、豊綱を三原に移していますし、天正三年毛利氏が、尼子勝久・山中鹿之助幸盛等、及び、そのあとおしをする、織田信長の將、木下秀吉と、備中で争うて勝つたとき、隆景は、三月十二日、吉田から三原に到り、翌十三日、水軍を率いて、海路備中の笠岡に赴いています。

その後、天正九年十二月、信長が、再び秀吉を遣して、毛利氏と備中に覇を争おうとするや、隆景は、三原にあつてその情報を得、直ちに、安藝吉田にいる輝元に報じ、翌十年正月には、隆景は、備中高松城主清水宗治、その他備前備中國境附近の七城主を三原に招致し、秀吉が近日來侵することを告げ、もし信長に従おうとするものがあれば、従つてよいと言明しましたが、七城主は誓を固くして、城地死守を答えました。

天正十年六月、高松城の悲壯な水攻めのかげに、最後まで、堅く城を守つて降らず、遂に、秀吉との和睦條件の犠牲となつて割腹した、清水宗治の、嫡子源三郎景治が、幼少の身で、人質として三原に留め置かれていたことを、知る人は少いのです。

このように、まだ、一應、小早川氏の本據が、沼田高山城に置かれていた天正十年ごろまでにも、三原が、隆景の政治的・軍事的策源地たる役割を果している史實が、散見されるのです。

三原築城と城下町の經營

天正十年ごろ、隆景は、三原に本格的築城を行い、高山城の山塞を棄て之に移り任んで、政治・軍事を掌り、城下町を營んで、領内の經濟的中心とし、且つ、沼田の地に散在する多くの寺院をここに移して、文化の中心地とも致しました。

小早川氏の版圖の膨張と、統治の強化とは、戰國時代の飛躍的な國內文化の發展に呼應して、領内のあらゆる意味での中心地たる三原の市街の形成を、必要とするようになっていたのです。そうして、三原城は、もはや單なる城塞ではなく、小早川氏が、豪華な、文化的生活を營むための住居であり、政廳でもありました。

毛利輝元が、廣島城を築いて、高田郡吉田から居を移しましたのは、隆景の三原築城に遅れること九年ばかりの、天正十九年のことですから、この間、三原は、中國筋でも、特に隆景に傾いた要地であつたでしょう。豊臣秀吉は、天正十五年、薩摩の島津義久を討つため九州役を起し、自ら軍を指揮しようとして、九州に下る途中、二月十三日、三原に到着し一日滞在して小早川氏の接待を受け、十五日に三原を出發、西下しました。その後、書を隆景に贈つて、宿泊と接待を謝しましたが、その際、特に、三原城の普請の用意周到であることを、賞するのを忘れませんでした。

この城も、唯今では、舊郭内を山陽本線が貫通し、三原驛が設けられてたゞ天守臺西北角と、内堀の一部を残すのみで、當時の偉容を偲ぶよすがもありませんが、慶長年間の記事によると、城は本丸・二ノ丸・三ノ丸が備わり、本丸は東西六十四間、南北九十三間、二ノ丸は東西八十五間、南北九十間、すべて三十二の櫓を設け、十四の門を開き侍屋敷凡七十軒、城下町の戸数は、千二百二十程あつたといふます。

極盛期の三原

隆景は、秀吉と和陸後、彼に厚く信任せられ、徳川家康、前田利家等と共に、五大老に列した程ですから、三原の繁華も、彼に負うところが多かつたわけです。隆景の知行は、毛利氏の領内、安藝・備後の地で、六

逸話が遺されている程です。

ある時、隆景が上洛した時に、重臣鶴岡元辰等が、三原の商人を、隆景に随つて上洛させ、會計事務をとらせました。歸國後、経費を清算してみると、支拂金の内、銀八貫餘が餘つていましたので、元辰は、よろこんで、これを隆景に報告しました。すると、隆景は、案に相違して、大變怒つて、「これは、必ず、支拂わなければならない價を、支拂わなかつたため、隆景に耻辱を與えるものだ。」といつて、その商人を斬罪に處せうとしました。元辰等は、百方いわけにつとめて、勘定の間違いのために餘つたのだといふことにして、隆景の怒をといたといふことです。

天正十六年七月二十二日、隆景が、聚樂第に於て、秀吉に謁したとき、太刀・馬・銀二百枚の外に、虎皮五枚・狸々皮一枚を献じていますのも彼が、南蠻船との貿易を行つて、珍品と利益とを得ていたことを推測さ

民主法實施の解釋

昭和二十二年五月三日新憲法が實施されてから既に二年有餘、これに基いて民法その他刑事法令が實施され、その体系も殆んど出揃つたようである。何れも國民の基本的人權の保障を基調としたことは畫期的改革であつて、封建的制度を脱した明るい民主國家が實現したものと云つてよい。しかし、こうした民主化が一般に周知、徹底してゐるであらうか。

以下、こうした問題についての市民共通の常識的な事柄について記したが、その中で私法的改革のおもなものは兩性の平等と家族制度の廢止とである。

兩性の平等は即ち男女同權であつて、舊法は妻たるが故にその能力を制限し、一定の法律行為をするには夫の許可が要するようになっていたが新法はこれを廢止してこの許可はいらないようになったことである。舊法は妻の獨斷専行を禁じ夫婦間圓滿を目的としたものと云えようが、この結果は夫の横暴となり、妻は夫の從屬的存在となり、所謂亭主關白と

萬六千石、筑前・筑後・肥前三國にかけて、三十萬七千三百石を領知し秀吉の懇望によつて、天正十六年二月には、筑前名島に城を築いて、これに居り、九州のしずめとして、文祿役外征の基地を固めたのでした。天正廿年九月三日には、豊臣氏の奉行は、連署して、隆景の臣に宛て、秀吉が渡海出陣する用意に、驛馬六疋を遣し、三原に三疋、長門國府に三疋を置く旨を傳えています。そのような断片的史實にも、三原が、樞要の地として、人々に認められていたことが知られます。

文祿外征中、隆景は、秀吉が、その猶子秀秋を、毛利氏の後嗣としたい意があることをきき、宗家の安危を慮り、役後、自ら進んで秀吉に請うて、秀秋を小早川氏の嗣子として貰ひ受け、家を譲つて、自分は三原に隱退しようと思ひました。秀吉は大いに喜んで、この申出を受諾しました。

毛利輝元は、秀吉に請うて、輝元の從妹を、秀秋の妻に配することにしましたので、秀秋は、文祿三年十一月十三日、都より迎へられて三原城に入り、十四日には船遊をたのしみ、十六日に、城中で婚儀を挙げました。祝言には、勿論、輝元・隆景、共に列して、澤山の贈物があり、盛大を極めました。翌十七日、鷹狩をこころみ、十八日には、隆景振舞の能を催し、高砂・田村、狂言二番を演じました。廿一日には、輝元振舞の能に歡を盡し、輝元は、一番の能、難波には、自ら小鼓を打つて祝つたのでした。廿二日、鷹狩、廿三日にも、須波島に鷹狩をし、翌廿四日秀秋は、上洛の途につきましたので、輝元・隆景は、糸崎まで見送りしました。廿五日には、あといわいとして、能九番を催しています。

桃山時代を飾る、政略結婚の華やかな繪巻は、このように、三原城中とその附近に、くりひろげられたのであります。

三原の商人と寺院

城下町の戸数は、慶長年間に、千二百二十あつたといふのですが、三原の戸数は、明治四十四年にさえ、二千六百六十四戸しかないのですから、當時としては、殷盛を極めた、立派な市街であつたわけですから、三原の商人は、隆景によつて、厚く用いられていたらしく、次のような

せるに足る資料です。

隆景は、三原築城後、沼田地方にあつた小早川氏によつて創建、若くは支持せられた多くの寺院を、三原に移しています。成就寺・宗光寺・香積寺を始めとして、三原の名刹の、殆んどすべてがそうです。法常寺はもと、竹原にあつたもので、竹原小早川氏に於ける隆景の先代たる興景の菩提寺でありました。隆景が、筑前名島より隱退して、三原城に居り慶長二年六月十二日、遽に病が起つて、その日のうちに、齡六十五を以て卒したとき、遺骸は、その縁故を以て、法常寺に於て火葬にされたといふ傳えられています。墓は、西郊沼田東村米山寺にあります。

筆者、筑紫中興、略歴。

昭和十六年十二月、國學院大學學部國史學科卒業。文學士。
三原市立第三中學校教諭。

辯護士 大 木 幾 馬

なつたのであるが、新法は平等を基調としている。しかし所謂嫌天下も全然なかつたとは云えない。嫌天下の夫が、新法により男女平等になり浮びあがつたことを驚喜したと云う笑話もある。良妻賢母も有能な妻も舊法の下では夫の許可なくしては獨立して重要な法律行為は出来なかつた。從屬的存在は解消したのである。即ち妻は獨立して財産を所有し、これを管理収益することも自由である。しかし夫婦同居して互に協力扶養しなければならぬことは勿論である。

次に結婚の問題であるが、成年に達した男女は父母の同意がなくて自由意思で婚姻が出来るようになった新憲法の下になつてから、戀愛結婚が盛んに叫ばれ、未婚の男女は籠から放たれた鳥のようで結構であるが、享樂的でないにしても、未だ思想の固まらない青年男女の夢を追ふた戀愛結婚であつたなら、所謂熱し易く冷め易い結果に終りはしない

であろうか。數千年來の東洋道徳は俄かに改革出来ない歴史的國際的進程と經濟的他の事情もあり困難と思はれるけれども矢張り思慮經驗に富んだ親や長上の意見も亦尊重すべきではなからうか。

近來家庭裁判所に持ち出される離婚事件が非常に多いようで、その原因も夫の横暴とか、妻の我儘とか種々であらうが、自由戀愛で輕卒な結婚から來る夫婦生活の倦怠とか破綻でなければ幸である。

家族制度の廢止となり、舊法では家族は戸主の支配に屬し一定の制限を受けていたが、これが新法により廢止となつて家族は戸主の支配即ち封建制から解放されたのである。この結果として相続問題に一大變革を來して、舊法の冷飯食ひに扱れた二男以下の子は浮上り、長子の特權であつた家督相続で、相続財産の全部を獨占承繼した特權は解消し、均分平等に相続が出来ることである。又妻は舊法に依れば他に先順位の後継人が皆無の場合のみ相続權があり、たとえ妻の内助の功に因り財産を増加した場合でも、夫の死後その財産につき何の權利もなく、夫の死亡により俄かに境遇の變化に泣かなければならない例も往々見受けたが、新法では妻の一部相続權を認め、この悲惨な境遇から脱することが出來たのは妻の人權尊重であり、法律民主化の賜である。

茲に一言すべきは私權は公共の福祉のために存在するもので、決して權利の濫用は出來ない。又義務は誠實に行はなければならぬことで、この範圍内でのみ法律の保護が存する。決して公共の利益を無視した權利はあり得ない。又信義に反した義務の履行即ち責任回避もあり得ないこれは法治國民として、文化國家として當然の事であらう。

次に刑事問題について一言したい。
近時殊に終戦後犯罪の傾向は經濟犯と公務員の犯罪及び青年犯の多いことである。
經濟犯の特徴は統制違反で、食糧其の他生活必需品の不足に原因するが食糧事情の好轉と生産の増加に伴つて、漸く生活は安定して建設の段階



三原をよめ

作詞 海音寺潮

一、夢の浮城 霞にあけりや

のぼる旭の 櫻山

三原繁昌の ソレヨイトサノセ

花乙女の 花乙女

二、唄愛い唄聲 どこから響く

工場娘の 糸場から

三原育ちの ソレヨイトサノセ

やさ姿 やさ姿

三、港糸崎 族ゆく鳥も

花の乙女に とんで來る

三原黄金の ソレヨイトサノセ

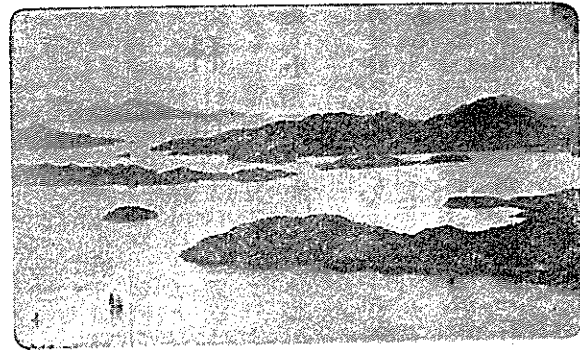
酒どころ 酒どころ

四、山は筆影 眺めは須波

沼田の大橋 波に浮く

三原乙女の ソレヨイトサノセ

唄になる 唄になる



に入つた現在においては漸次減少することであらう。

戦後混亂の時代に社會道義の頹廢と思想の混亂に乗じて強悪犯人の横行する事は歴史に見る所であるが、我が國でも敗戦後においては異常のものであつた。公務員の職務に關する收賄とか、取扱ひ物資の横流とか果ては零細の同情金集積流用の問題等、難民救済の爲めに充てねばならぬ淨財を、酒色の爲めに横領して、これを湯水のように費消した高級官吏に至つては、これが事實とすれば國民を裏切る極悪の輩であつて言語道斷と云つてよい。生活の窮狀から犯したやみ屋、こそどろの比ではない。實に天人共に許されぬことである。一般大衆は裁判の成行に注目せねばならない。

私が取扱つた刑事事件の範圍で二十歳前後から三十歳までの青年で町のあちやんの仲間に入つて恐喝や強盜の罪を犯す者の多いことには驚くの外はない。これ等青年中には往々在學中の學生や良家の子弟で、始めは興味とか、好奇心から萬引程度から二度三度重なる途にこれが習癖となる者や失業や何かで一定の仕事を持たない青年が、その暇に酒や煙草の味を覺え小遣に困つた結果罪を犯すなど、その動機は種々であるが、一つは戦後道徳の頹廢とか、精神教育の缺陷から來る環境の影響から來るのが主な原因で、中には保釋や執行猶豫中に再犯を重ねる青年も多い。之等の青年犯罪者は意思の薄弱で將來の影響を考えず、しかも犯罪が大きな耻辱であることを自肅反省したならば、前科者として社會の指彈を受けないで済むことであらう。

自制的出來ない青年は氣の毒であり、同情の目を以て見なければならぬが、又こうした犯罪を防止するには種々の社會制度を設け萬全の策を講じなければならぬ。一方親兄弟即ち家庭の不斷の注意と暇を與えず仕事を與え新青年層等の力で互に精神を鍊磨して犯罪を絶滅することが肝要と思はれる。
近く講和會議も開かれる機運にあり、これから平和國家の再建の段階に入らうとする秋に當つて、民主法律の遵法を期待し、國民の基本的權利擁護を強調するものであります。

観光三原地誌發刊に寄せて

三原建設と文化

三原市長 戸田勝巳

帝人工場、東洋織維、中日本車輛、日本セメント其他大小の工場を擁し、工業都として新興した三原市は、これらの工場群を中心とした工場文化とも謂うべきものが、一つの強大な勢力を作つてゐる。

また隆景公築城以來約四百年の傳統を持続した保守的文化も陋固として抜くべからざる他の一つの勢力を形成してゐる。

三原市に於ては、この二つの文化の色彩が尾道、福山兩市には見るべくもない鮮かな對比を畫き出してゐる。これらの二つの勢力が指向するところは、窮極に於ては歸一するとしても、現實的方法に於ては寧ろ全く逆な方向をとることが屢々である。

この二つの文化が止揚されて渾然として一つに融け合ふとき、三原市は現在のゆきづまりを脱して、一大飛躍を期待出来るのではないかと思ふ。市の諸施策は絶えずこの線忘れてはならない。

政治と科學

三原市議會議長 小林憲一

個人完成も一家の幸福も、市の發展を促すにも、科學化する。ことを忘れてはその成功は困難である。

退嬰的であつて、ちつとも進歩しないと云ふのは、研究度が低いとか、模倣的であるとか等種々の原因があるが、先づ第一に科學的考察の不備がその要因をなしているのではあるまいか。政治は習慣や感情に捉はれてはならないので、政治する人の氣構へが、その人の責任なり、義務を科學的に分析しての實行でなければ到底市民の期待には副えないであろう。

一つの事柄を科學的に分析して、そのまゝ現實の枠にはめて検討し、これを吾が三原市の世論に反映して編み出した意見こそ、強い力を持つものであり、市民は自らその善政を仰ぎ尊敬するのである。政治の妙を科學化すること―それは所謂妥協的な話合と混同できない嚴たる姿で市民の前に光るのではなからうか。

私は今回三原地誌發刊に寄せて、市民各位と共に住みよい三原をつくりたいし、そのためには政治のみでなく、各人が高き理想に燃えて然も一步一步を科學的に踏み登り、香高い文化都市三原の建設を急ぎたいと言ふことを祝いの言葉と致します。

商工業者の結集を要請

三原商工會議所會頭 吉永龍次郎

もろもろの政黨は選舉當時高く掲げた中小企業振興の看板はどうしたのか見、政府は落後一步手前になる業者を見殺しにするのか、などと恨んでみてもいままら始らなす。

中小商工業者が廣くかつ強く結集して、大きな政治力を持たない限り有効適切な振興策の確立はとうてい期待できないであろう。されば中小商工業者は、一日も早く政治力の結集を圖らなければならぬが、それを待つてはいられないほど、業者は危急存亡の瀬戸際に追い詰められてゐるのである。

他力本願では助からず、自力をもつて難局突破を圖らなければならぬのが、せつばつまつた商工業者の姿である。

よつて業者は、自力をもつて難局打開の妙手を打たねばならぬのであるが、それにしてもあまりに力が弱すぎる、中には底力のある業者もあるにはあるが概して微力であつて、自分一人の力をもつては、何ともならない者が多い。何ともならないものを、何とかせよといつてもそれは無理な話である。

しかし一人の力で何ともならないものを二人の力三人の力より以上多數の力を合せたならば、そこに難局突破の力が生れてくる。業者の協力については、すでに今日までも行はれてはいるが、その協力体に魂が入つて、躍動しているだろうか、靜に反省してみたい。形だけの魂の入つていない協力体などは有つて無きに等しい存在である。

日本經濟再建のための苦難時代を突破して、彼岸に光明を見んとするならば、魂が打ち込まれ、よく躍動する協力体の組織にまづことを痛感するのであります。

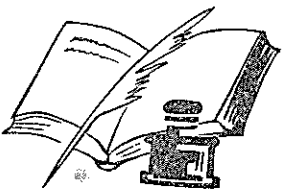
三原市建設を想ふ

縣會議員 村上昌衛

過去十年を顧みて、一九五〇年の三原はどうであろうか。商工業、農業ともに、飛躍的な發展を遂げてゐることに氣づく。

商店は、逐次専門店化して各々の研究と宣傳に新しい商法を編み出そうとしてゐること。亦工業は大企業において、中國の覇として恥じない。中小工業の操業も、終戦來陸續として生れ市の發展に寄與するところが多い。一方三原市は市街周邊に廣い田園を持つてゐること、高度の栽培技術によつて生産される青果の誇りは特筆してよい。十年昔の三原と比較して、その躍進を目のあたりにみるのであるが、さて十年後の三原建設は一体どうしたものか。このことは識者によつて論究され、爲政者によつて既にその緒についてゐるものもあるけれども、事は慎重を要し、然も大三原市建設の企劃に當つては、その日限りの愚策では許されない。

十年後の三原驛頭に立つて、驚異の瞳を注がせるに足る諸計畫の樹立は、急を要すると共に、年々繼續的に積立てられて行くものが望ましい。そして事業完成には市民一人一人の深い認識と努力が必要であるが、先づ第一にこうした構想を掴み得るよう、不斷の啓蒙を行はねばならぬと思ひます。観光三原地誌發刊に當つて、申し上げました事柄について、具體的研究を市民各位に要請致します。



三原文化

金尾 覺 一

「三原見に来たか三原の城は地から生えたか浮城か」と俚語にも歌ひ續けられた我が三原は小早川隆景を城主とした静かな美しい城下町である。天正拾年頃三原灣上の大島小島の島を連ね技術の粹を集めて築城されたものであり、戦國時代とは言え、既に文化の範を示してゐたものである。今は天守臺の西北角と内堀の一部を残す丈で當時の偉容を偲ぶよすがとてもないが、城趾に歩を進めた時「廢墟の石に咽びつゝ悲節を嘆する人や誰」とそゞろに昔が偲ばれて無量の感に打たれるものがある。此の静かな城下町も拾四年前市政がしかれ大三原市が生れたのである。

其後帝國人造絹絲、東洋織維、中日本重工、日本セメント等の大工場が續々と建設され、中小工場を數える時は一躍にして工業都市として面目を一新するに至つたのである。又戦前は石油の貿易港として誇つた糸崎港あり、神戸下關間に於いて鐵道の中心をなす糸崎驛あり、瀬戸内海の島々を結び海上の便ある三原港を持ち、水陸交通の中心をなしてゐる。又大三原驛の改築

想 錄

も目前に控え、之が完成のあかつきは一層市の美觀を副えるであらう。

又廣島縣教育の大半をあづかる廣島大學三原分校あり、高等學校あり、内容豊富な圖書館を持ち、備後地區の文化の中心をなして、幾多の人材を出してゐる事も當市の誇りである。従つて民間に於ても文化方面の活躍目ざましく三原文化協會、勞働文化協會、郷土史研究會、古典藝術研究を目的とする長老組の談風會、美術協會、親しみを以つて讀まれる三原自治警察のひまわり雜誌、其他同好の士が集つてお互の向上をはかりつゝある和歌や俳句の會等々數々の文化團體が誕生してゐることは實に喜ばしい次第である。

又商工會議所を中心とする中小工業者の堅實な活動も目ざましいものがある。

三原を訪れた旅人が一度三原城趾に立つたか或は丘陵に歩を進めて俯瞰した時は、必ずや山紫水明の言葉が發するであらう。筆の影そのもの、筆影山を右に見て遙か彼方に目を投じた時、大鷲小鷲は勿論のこと、高根瀬戸田の島々が美しく散在し、鏡の如き瀬戸海に眞帆片帆がその影をうつしてゐる様は、將に一幅の名畫である。又視界を後ろに轉する時、緑したたる山々は優しい姿を横たえて、松嶺の音たえまなく、春は櫻花爛漫として咲き乱れ

觀光と芝居と三原

佐藤 光 男

此の間藝術新潮と云ふ雜誌を讀んでいたら、思ひがけず、三原の事が書いてあつた。

それは文學界の大御所、志賀直哉と新劇界のナンバーワン杉村春子との對談の中である。

大要は三原の街はオットリして城下町らしく、全体がのんびりして、富んだ街だと云ふ事と、文學座が終戦直後から毎年公演しているが、第一回からづつと毎年入りが良い。こんな事は大阪でも九州でもない事で、三原をのぞいて、めづらしい事だ。一般的には回数を増す毎に段々入りがよくなる。と云つたような事であつた。文學座の公演回数は昨年で三原が第四回で、廣島が第二回、福山、呉が各一回である。

毎年尾道や他の町村から約千數百人の人々が、文學座見物に三原へ集る。汽車やバスや、島々からは別船を仕立て、お客さんがやつてくる。大賣出しでも花見でも三原から尾道へ行くとも尾道から三原へはお客は來ない。

觀光と云ふ事はたゞ名所や設備だけではなくて立派な催し物にもあてはまると思ふ。

スイスでは一年中のある時期(今、覚えていないが)に有名なシルレルの野外劇を催す。例へばウィリアム・テルの芝居等をである。この芝

居を見る爲に世界中の國々から觀光客が集まるそうである。

文學座は既に三原の名物になつた。私は文化運動としての文學座公演を始めたのであるけれど共、今では一種の觀光事業の一つとしての將來を考へていゝと思つてゐる。

一流の劇團人の人々の口々に語る三原の街は東京でも大阪でも九州でも四國でも酒の名所として、同時に演劇の盛んな文化都市として有名になりつゝあると云ふ事を知つた。今後の皆様方の御支援を期待してやまないゆゑんである。

(筆者は三原文化研究會委員長)

健康都市の建設へ

永田 三六

三原の地に初めて足を踏み入れた人々の誰もが直感するのは、工業都市として知られて居る此の街が、案外静かで落ち着いた感じのするところだな、と言ふ氣分であらう。今は工業都市として繊維工業に重工業に日本産業の先驅となつて、戦後日本に重きをなして居るが、且ての三原城下として地方に君臨し、文化の中心地となつてゐた當時の面影は、矢張り市内の其處此處に見られるからであらう。其の代表的に見られるものは、古びた老舗の軒を連ねた街路と、昔乍らの狭い道路、それ

古色蒼然たる神社佛閣が點在する様は又美觀である。野立て一服の茶を戴く時、そこには立派な詩歌が生れ出るのも當然の事であらう。秋は松茸の香り高く紅葉をわけて奥深く山を訪れ、林間に紅葉をたいて酒を温める風流人を見ることも城下町にふさはしい風情である。

又冬の頃は市の西方にある西野梅林あり、寒空に咲き誇る梅花は時に白雪に和して香り、巴焦が旅の疲れも忘れ、感嘆の聲を放ち名句を残して去つた昔も偲ばれて懐しい。

夏の頃ともなれば數多の漁船は海に浮び、大公望をきめて釣に一日を楽しむ事も出来、春夏秋冬ビクニツクコースは自由に選ばれ、實に心地のよい三原である。山紫水明の美に包まれた三原は又酒どころでもある。酔心、金水、大悦、蘭菊等大醸造家の造り出す天下の美酒を傾け乍ら山海の珍味に舌鼓を打つ。數々の評論家、畫家、藝術家の異口同音に讚美してゐるのもむべなる哉である。

美麗な建築物をもつて人々を誘致する設備はないが、自然美に恵まれた三原は心ある人には喜ばれる土地であらう。將來市としても團體としても觀光誘致の種々な企畫もあるであらうが、一日も早く實現されて一層美しい文化都市が建設される事を樂しみにして筆をおこう。

(筆者は郷土文化研究家・醫師)

に山門も古くなつた社寺の多いこと、開業醫の多いことは新開都市に見られない所であらう。

三原市は戦禍を蒙つてゐない。従つて市民の心には昔乍らの郷土愛の美しい氣持が充分に保たれて居るが、其の半面に新らしい市街地への改善と云ふ氣分に欠けて居るのではないだろうか衛生都市としての急速の發展改善を後らせるのではないかと懸念をいだかせる。

現在我國の既設都市のほとんどが直面して苦しんで居る問題は、上下水道の問題であるが市も第一に着手しなければならぬ下水道の問題は、市街地の急速な發展と從來の下水道の小規模であつた事からして今後市の發展と共に、益々加重される大きな問題であり、而も一日も早く完成せねばならぬ問題である。

最近一般に衛生思想の向上は、當局の熱心な指導によつて著しく向上して居ることは全く喜ばしい事で、特に食品取扱業者間においての團結した協力運動は目立つて居る。清潔で氣持のよい店舗が日々に増加して居ることは市民の自覺を表現したものと思はれてうれしい。三原の地は海あり、山あり、氣候温和で常に空氣も澄んで居て全く氣持の良い都市である。從來何れの工業都市にもある不愉快な工場の煙塵は全く見られない。不思議と云つてもよい程である。而し之には工場地區の選定に充分な都市計畫が考慮されて居るのであると云ふが、都市計畫も

この點では萬點と言ひたい。

今後青少年の健康は、最も重要視すべき事であつて、体育場の設置は早急を要する問題である。工業都市として多數の青年男女をもつ市として健全な精神と頑健な体力とを培ふに充分な体育場の一日も早く完成されることを希望する

最近全国的に結核患者の届出数が多くなつて居るが、三原の市民の結核に對する關心も最近一段と深められつゝあることは全く喜ばしいことである。又一般傳染病も年々減少して居るのは一に市民の協力の結果であらう。

三原は現在一般に醫療保健機關には恵まれてゐる。治療には日赤の結核療養所が糸崎にあるし、最近市立の中央病院の設立により、市民の醫治に當つて居る。其他帝國人絹株式會社、東洋纖維株式會社、中日本重工業株式會社は各々其の従業員並に家族の病院として立派な病院を設けて、其の健康保持に努力して居る。又市内に在る個人開業の醫院は各科を合せると約六十を數える。従つて醫治機關の數としては決して市民に不足を與へない。せいたくを言へば一日も早く文化都市によりふさわしい現代的の綜合病院の建設を希望するものであります。

(筆者は醫博縣立三原保健所長)

た、人間の義務であることをしつかり自覺しなければならぬ。

(筆者は三原市教育課長)

たばこ三原

村上 時雄

三原の人はよくたばこを喫みます。一年間に四千九百五十萬本餘で、お金にして一億一千五百萬圓餘になります。即ち一人一日に付二本半で五圓八十九錢の所を喫むことになり、之を成年者の一人一日に計算しますと、四本四分で十圓三十錢となります。又三原市民全体の一日の喫量は、十三萬三千七百九十本、お金にして三一萬五千六十二圓となります。之がみんな煙となつて消えてしまふわけですから、實に勿体ないことではありませんか。勿論附近町村からの工場通勤者が多いので、一概に三原の人が喫むとは云えないでせう。又登録した成年女子でたばこを喫む人は至つて僅少なことから考えますと、常習喫煙者の一人一日當の喫量はすつと増えることになりませう。近頃では婦人喫煙者も段増えては居りますが、何といつても未成年男子の喫煙者が増えて殆んど半數は喫む様になつてゐると思はれます。

今次の戦争末期戦災によつて澤山のたばこ製造工場が焼失したのと、食糧増産に主力を注がれ葉たばこの生産が制限された爲、たばこの生産が大變減つて、配給制度を採られ消費者は極端

教育 眞實愛

井原 友夫

子供のない近所の御夫婦が小學三年生の女兒を貰われて育てゝいるが、その奥さんが或日來られて雑談の後「あの子を育てるのになんかに育てたらいゝでせうか」實母でないお母さんの色々複雑な悩みを話された。こんな場合世のお母さん達の多くは實母でもないのに實母らしく振舞うことに専念する。そうして振舞う事柄を通じて子供の氣持とお母さんの氣持に色々食い違ひが起きる。そのことがお母さんの氣になつて次に又實母らしい言動を考える。そうして又食い違ひを起すあゝでもないこうでもない色々悩みを濃くしていく。

實母でもない母親がいくら實母らしく振舞つたところで所詮實母にはなれない。又眞實實母でもないものである。實母でもないものが最初に實母らしく振舞うことによつて、實母のお母さんにならうと、考えたところに必要以上の虚偽の生活が展開されることになる。人間は誰でもその本性に眞實を求め、眞實を愛し、眞實を行おうとする。子供は尙更そうした本性が露骨で生一本である。

まだ愛情の湧出がないのに如何にも實母と同じような、否それ以上の愛情がある様に愛

に不自由をさせられました。近く配給制度も解かれ自由に何品でも、又いくらでも喫める昔の状態に回復して参ります。斯様な次第でどんなたばこを好まれるか、婦人用として何たばこが愛用されてゐるか、判然致しませんが、値段は高いけれ共光などは現在でも將來も愛用されるでせう。

政府では年額千二百億圓の專賣益金を擧げようと計畫して居りますので、自然高いたばこを喫まなければなりません。それでも次第に品質を高めるし、近く値下げをして澤山に賣出すことに居ります。この專賣益金が國の財政を賙ふ上に大きな役割を果してゐることとは、皆さんの既に御承知の通りです。

たばこは昔から健康上有害だと云はれ、未成年者禁煙法も出来て居ります。それなのに却つてたばこがよく賣れるといふ原因は何處にあるのでせう。人間といふものは妙なもので他人から見ると、するな、讀むな、行くな等制止されると却つて餘計にやつて見たい氣持を起すもので、たばこについてもその例に洩れずといふわけだ。然らばたばこの魅力は何でせう。仕事のあいまいな一服は實に何とも云えない良い味で疲れを癒しますし又社交上無くてはならぬものとなりました。何はともあれお互にうんと働いてうんと儲けたばこもうんと喫みつゝ朗かな氣持で新日本の再建に向つて進みたいものと考えます。

(筆者は日本專賣公社三原出張所長)

パーマと理髪は 帝 通美島へ

情の抑つけをしても子供はそんな愛情にはソツポを向けてお母さんの期待に添わないものである。

單純な子供には大人の養母の複雑な心遣いは判りにくく、然も何よりその眞實でないものにソツポを向けるのである。養母の養育訓は先づ偽りのない愛情であるそれから生れる眞實の言行である。世間の手前や隣り近所の手前から生れ出た虚偽の愛情ではなくてその人間の本性から湧出した眞實の愛情から出發しなければならぬ。

世の中は複雑多岐で原理原則論だけでは中々世渡りがむづかしいことは俗人も識者も百も承知のことであるがこの複雑な世の中での人間生活に於て吾々が言行をなそうとするとき、何を標準として決定しなければならぬであろうか。それは眞實であり、眞理や正義でなければならぬ。

眞理、眞實に反して正義にそむく言行が如何に人間を不幸にするかは過去の歴史が實證してゐるところである。眞實にもとづく生活が人生の目的であり、又平和な文化國家建設の爲に必要である。

馬鹿と云われ、ふぬけと嘲笑されても眞實を求め眞實を行うことはたちまち吾々に課せられ

洋食の店 エンゼル 三原市中央市場前

和田沖干拓の將來

播磨 一雄

和田沖干拓計畫は數年來の懸案で、松永灣干拓とその生命を共にしてゐる。面積は約五十餘町歩で、政府豫算は二十五年度に計上されてゐないので、同年補正豫算に入れて貰ふよう猛運動を展開してゐるが有望である。

この工事は豫定地が高いのと、漁業權等の問題がないので容易に完成出来ると思はれる。これが成功の暁は沼田川用水に便で、農耕地として立派にその役割を果せる。

尙本市都市計畫の線に副い、不足してゐる工場並に住宅敷地として好適であるので、市當局と共にあらゆる方面への諒解工作をつゞけると共に、舉市的應援を求めて竣工致したいと念願してゐるわけだ。

(筆者は市議、和田沖干拓促進協議會長)

服装 美へ

土屋 眞千子

最近女性の服飾を観察しますと、かなり知性的に洗練されて來ては居りますが、矢張り中に

は鬼面人を驚かすようなのもあつて、冷汗が出る時も少くありません。

文化度の低い女性の虚榮が、只人より違つた服装をして周囲の目を惹き、亦それを得意とするあさましい姿であつて、美装とは言えないのです。

新美の創造は自分の生活で充分着こなす事の出来る一個性を生かす事の心構へさえあれば、先づ流行の化物になる心配はないと思ひます。街頭で正装してゐる女性に對して、頭の先から足の先までジロジロと波状攻撃をやつてゐる男女をよく見受ける。正装してゐる女性は盛裝や虚飾美でなく實にその人を表現した美しさであるのに、嫉妬と言ふか、異端視と申しますか恥しい眼の使ひ方であります。これは日本人特有の欠點と申さねばなりません。

昔より心の美しい人は、その人全体を美しくすると申す通り、吾が三原市も後身文化都市として青年男女の眞善美を要望してやみません。(筆者は東町土屋洋裁研究所長)

三原市の交通運輸

今井輝人

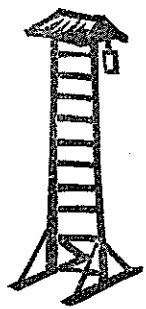
△陸上の交通

三原市營バスは昭和十七年九月尾道市より權利の譲渡を受け、尾道市と三原市の境界である福地より西宮神社前迄八・九軒の區間を自動車

五臺を以つて一日十三往復、又市内線として西宮より糸崎神社前迄一日四十三往復の運行を開始して市民のよき足として喜ばれたのであります。

昭和二十二年春新車二臺を入手漸く一日十二往復の完全運行が出来るようになった。三原市より尾道市に向ふ不便を除くため尾道市に對し相互乗入方を交渉の結果、協約が成立昭和二十二年十二月一日より三原驛―尾道驛間を相互六往復する事になり市民の利便は一層増大する事が出来ましたが更に利用者増加に伴ひこれが回数増加の必要に迫られ翌二十三年六月より相互五十二回乗入れの協定を結び現在に至りました。尙將來は乗入回数相互十四回を目ざして目下尾道市と交渉中でありまして近く實現を見る豫定であります。

次に市内線の増強については須波線の乗入れを計畫し蕨陽自動車會社と交渉の結果昭和二十二年八月より三原驛を起點として須波西町迄約七軒の一方乗入れを開始し、更に昭和二十四年二月には三原驛を起點とし市内中之町を経て御調郡美ノ郷村に至る路線約十三軒の延長を計畫運行を開始し、同年五月當局の正式許可を得るに至り、又同じく三原驛より隣接豊田郡長谷村境迄の路線約七軒の一方乗入れを計畫、蕨陽自動車會社と交渉の結果これが實現を見るに至り三原驛を中心として東西、南、北に亘り文字通り市民の足としての交通網の完璧を見るに至りました。



市民へ の警告 大火の豫防

日野俊二

現在政府も民間も日本再建のために大變な努力をしているが、其の反面毎日多数の家屋や物資を火災で失いつゝあることは、國民として眞に残念なことである。

一回の火災で多数の家屋を焼失する惨事が全國各所に起り、殊に最近は一都市が全滅と云うような大火災が発生しつゝあるに至つては全く心細い限りである。

小さな火災もあつてはならないが、殊に大火災の豫防にはお互に一層注意しなければならぬ。一度の火災で多数の家屋や物資を失う大火災にさせないためには、特に次のような場合を考へなければならぬ。

一、風の吹くとき

大火災は風の吹くときに必ず何處かに起つてゐる。風の吹く日に市街地で出火すると數分後には其の周囲の家屋に延焼して、一分間には何十戸と云う速さで猛烈に燃え擴つて一町が火の海になつて行く。點々として家屋が散在する村落でも、風の勢にのつて何十戸と云う一部落が全滅した例さえある、従つてこのように風の吹く時は餘程火氣に氣をつけねばならない。

二、湿度の低いとき

大体に於て十二月から四月頃までの間は湿度

の低い(空氣の乾燥)季節で、殊に晴天の續いた時は湿度の低いときで、火災には一番危険である。こんな時にはタバコの吸殻のような小さな火氣でも火災になり易く一旦發火すれば普通の時の火災に比較して想像以上に火足が速いため短時間のうちに燃え擴つて行くから油断ができない。

以上のような風の吹く時や、湿度の低い時で火災に危険な天候條件の場合には、火災警報が發令(サイレン三十秒宛二回吹鳴)される。

この火災警報が發令された場合は、非常に火災が起り易く、又起つた場合には燃え擴がりが速いため、瞬間に大火となるのであるから、この場合はお互に總ての火氣に特に注意を拂ひ、各自に確信をもつて自分の所からは絶対に火災を起さずと言ふ觀念を持つことが何よりも肝要である。

尙ほこの場合には屋内の火は、完全に始末して屋外での焚火や子供の火遊び等は絶対に禁止しなければならない。

火事豫防については、種々の要件があるけれども、要するに一戸一人一人が協力して火の始末を完全にすることにあると考へる。

(筆者は三原市消防署長)

尙本年度には縣東部三市を結ぶ三原―福山間直通バス運行の機熟し三原、尾道兩市營バス、鞆鐵の三者協議の結果これが實施を目ざして目下書類申請中であり、近く認可の豫定で、實現の曉には市民はもとより沿道町村民の利便と三市發展に寄與する事は甚大であると考へます。

△海上の交通

三原市を中心とする海上交通網は極めて貧弱でありましたが、昭和二十二年五月巡航船三原丸一隻を購入し、昭和二十三年二月より三原、瀬戸田間一日一往復の運航を開始いたしましたこれに依り附近島嶼部との交通日を追つて頻繁となり、これが運賃の合理化と發展とを計る爲經營を民間に依託し益々市民の利便供與に盡瘁いたして居ります。又兼に連合軍より假保管中の汽船第一神州丸を正式に拂下げを受け新に三原、今治港間の航路新設を企圖し、目下航路許可申請中で、實現の曉には陸上交通と相俟つて市民並に附近島嶼部は勿論、中、四國を結ぶ海上交通に資する事になります。

由來文化の盛衰は交通の消長に依ると云はれてゐます。吾が三原市は市制施行以來日尙淺く先進都市に比較し交通網の發達は實に遅々たるものがありました。終戦後僅々數年にして斯くの如く水陸兩面に亘り一大飛躍を遂げました事は偏へに市民各位の絶大なる御援助に負ふところが大きであります。

(筆者は三原市運輸課長)

農業 の 斷 想

三原市農林技師 沖 良 人

我が三原市は東南はるかに數多の島々を望見する波靜かな瀬戸内海の懷に抱かれ、北背は中國山系をもつて圍繞された、氣候溫暖四季を通じて産物の絶えない國藝都市として工業と共に發展し、中にも特産たる木原の分葱三〇萬貫、舊三原のトマト一〇萬貫、須波の柑橘一萬五千貫は、その大半を京阪神の消費地に出荷して名聲を拍し、遠くは且つて朝鮮滿洲をも顧客とした實績を持つ新興國藝都市として其の將來は囁目されてゐる。更に技術的經驗と市内各地の適地とをもつて計畫すれば、酒米一千石、加工用甘藷一〇萬貫、良質をうたはれる白菜類一〇數萬貫、加工用蘭草三萬貫、其の他煙草、高級蔬菜、果樹或は工藝特用作物の生産は裕に近隣の需要を満たして餘りあり、加ふるに近く實現せんとする沼田川河口和田沖干拓並に現に進行中の中之町河川改修により生ずる約百町歩の土地は未だ開發されてゐない山林資源等と共に三原市産業發展に一大光彩を添えるものと思はれる。そして之等の事業を計畫し、或は指導實踐する諸團體としては市内四ヶ所の適地に各々設立せられた農業協同組合を初めとして、將來如作灌漑をも計畫されるであらう水利組合、或は農事開發期同盟會、農民組合、青年新興會、共濟組合、又國の出先機關たる食糧事務所、作物報告事務所等々其機能の全力をあげて産業發展に參畫せられてゐる事は誠に喜ばしいことであり、大いに期待されるものがあります。

市財政のこと

三原市収入役 西原直

三原市が合併後開もなく戦争に突入したためすべてに規制を受け、都市としての態形や、具備しなればならない幾多の要件即ち基本的問題が解決されていない。漸く一昨年頃からその問題が具体化して、教育、厚生、産業、土木と重點的に着々實効を収めている。これは市が自主自律性をもち又市民の自治に對する關心がたかまつて税の負擔を通じての協力の結晶で、確かに行政の上に強い一線を引いた感がある。



市が近代都市としての實現への構想施策は多岐多方面に亘るが、この施策と相俟つて財政の健全化更に弾力性をもつことが要件である。財政には税負擔その他が伴うがその負擔の概況を述べてみよう。本市が合併當初豫算は五十萬圓程度であつたが、其後の物價の變動と飛躍的發展に伴つて、急激に上昇し今では二億圓に垂んとしている。一般會計のみにいへば一億五千萬圓で、一戸平均一萬二千圓の出資となり、異狀の數字に達してきた。これがどうして歳入に現れるかといへば、主たる財源はなんといつても税である。他

は補助金、交付金を始め税外収入で、この比は税三、税外七の割合となつて收支の均衡をとつてゐる。然しどれ程の實數が市民の負擔になるかといへば、税外の使用料手数料は別として又税の内でも入場税、遊興飲食税、酒消費税或は配付税のように、特定の者に限られて徴收し、又は配付される間接的な税金はさておき、大衆に課せられた税金を綜合してみると千五百萬圓となり、これを法人、個人に區分すると個人が一戸平均九百圓餘の負擔となる。これが財政運営の動脈であるといつてもよいが、税金として過重な負擔は制度の上には許されていないことがわかる。

さて税外の補助金、交付金或は負擔金等それぞれの収入は、國費と地方費が調整され負擔區分が明かで、これは必ず委任事務又は事業執行に伴う収入であるから固定財源ではない。今度行われる税制ないし財政の改革によると、みだりに國家財政のみに依存することは許されない。あくまでも自主財源によつてゆく措置が講ぜられよう。即ち財政の凸凹調整のため地方自治への財源附與、地方税の増加はこれである。それで將來に向つては税の輕減を望むべきものでなく、むしろ増徴の傾向でこれが課徴には一層の困難性が伴い努力が要望されているわけである。

名産分葱

内島英俊



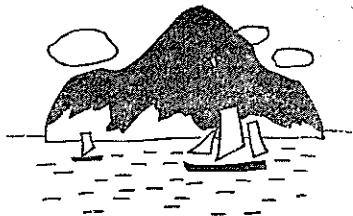
廣島縣の特産蔬菜として、其の名を天下に知られて居る木原分葱は三原市の東端木原町一帯に栽培せられ、十二月より三月に亘り嚴冬野菜として端境期に出荷せられる。北背に屹立する山を負い、南面に點綴する瀬戸内の島を繞らす天然温室で粘質土壤に多量の金肥を施して栽培せられる爲めに耐久力が強く永く新鮮度を失はないので、遠距離輸送に堪える特徴があつて生産量の大部分は遠く京阪神の市場に送られて生産地よりも寧ろ珍重がられて居る現狀である。

この分葱は昭和十年頃迄は各生産者が直接或は仲買人の手を経て京阪神市場に無統制に出荷して居たが、昭和十年頃より心あるもの、提唱によつて共同出荷組合を組織して統制出荷を行つた。爾來品種の改良、荷造輸送の改善に眞剣な努力が續けられ、市場の名譽を一層昂めるに至つて栽培面積約三〇町歩、平均三〇萬圓の收量を得、然も主食の栽培に影響なく開作でもつて其の實効を擧げてゐる。昭和二十三年農業協同組合が全國各地に設立せられ、産地木原はこの特産を基盤として、木原農業協同組合を設立してよりその生産販賣に全力を傾注して、益々その販路を擴大し、名實共に日本一の分葱生産に精進して居る。

(筆者は木原農業協同組合長理事)

産業の躍進を目指して

徳永源吉



商業の繁榮は、商業道德の確立にまたなければならぬ。

終戦後、商業者否全日本國民の道德が極度に混亂し「他人はどうなつてもよい」「自分さえ良ければよい」といふ極端な考え方をする者が多くなり、就中商人が商賣の正道を逸脱して、邪道に走つてきた者の多かつたことを頗る遺憾に思つてゐた。昔しから、商賣繁榮の秘訣は、自他共に利を得ることにあり、己れを利せんと欲せば、先づ人を利し、己れを達せんと欲せば、失づ人をして達せしめよ」と喝破されている。

お客に満足を与えることによつて、そのお客は必ずやその店からよい感じを受けるに違いない。そしてよい感じを受けたお客は、いつまでもその店に向つて足を運ぶであろう。客足が繁くなり、賣上が増すことによつて店自体の利益は自ら増加して来ることは、火を見るよりも明らかである。

要するに、お客を愛することによつて、商賣は繁榮する。それが眞の商道なのである。

然るに終戦直後の商業はどうであつたか、お客を愛するなどといふ考へは全く消え失せて、他人の迷惑も、不利益も、非難も眼中になく、只自己の利益のみに吸々たる有様であつた。

こうした戦後派の商賣が永らく榮える道理がない、お客の利益に反した店が没落の運命をたどつてゐるのではないか、商賣の眞使命が「お客

を愛する」ことにあることを雄辯に物語つてゐる。

交通網を整備すること等々、商業繁榮策の一つではないが、その根本的な考え方が間違つて居たならば、風前の燈火である。私どもは目先の利益、今日一日の利益に拘泥することなく、細く永く末廣がりの經營を念願するが故に、商業道德を確立し、顧客愛の精神に徹することが、三原商人繁榮の基礎と考へるのであります。

(筆者は三原商工會議所商業部長)

車輛製作への希望

井上進吾

瀬戸内海に大鷲小鷲の二島が夢の様に浮くところ、糸崎驛に接して市の一角をなす中日本重工業株式會社三原車輛製作所がある。敷地の西端に瀬戸内海に通ずる運河があり、運河に沿つて数棟の鑄物工場が立ち並んでゐるのがそれである。

西の方九州から、東の方關東より、鐵飯や、型鋼や、パイプが運ばれてくる。飯は製鐵工場で切斷され、ローラーで丸められ、或はプレスで成形され、飯で止められ、熔接で綴られ、ボルトで支えられて機關車のボイラーが出来上がる。或は型鋼が組立られ、薄鐵飯がこれを覆つて電氣機關車の車体や、貨車の車体が出来上がる。

こうして出来上つたボイラーや車体は機械工場で作られた車輪や、ピストンやロッドやその他の部品と共に組立工場に集められ、六〇屯の大クレーンに吊上げられて試運転線に連なる二條の鐵路の上で組立られて行く。

今美しく塗粧されて試運転線に引出され様としてゐるのはタイ國から注文のミカド型蒸氣機關車一〇輛の内の一輛である。日本再建の爲の買

易の一端を擔つて輸出され様としてゐる。

昭和廿四年秋貿易ミツションとしてタイ・インド・パキスタン・ビルマ等を訪問した多賀所長は次のように語つた。

「今東洋の蒸氣機關車の市場は主として英國、ドイツ及び日本の激しい競争である。現在の日本の機關車は價格に於ても納期の點でも之等の國との商戦に十分打ち勝つことが出来る。今後世界市場に打つて出る爲には低廉な價格では駄目で、品質性能共に戦前に優る優秀品を作らねばならない。」

此工場の新考案の一つに高速電車がある。これは電車や客車が高速となると著しく揺れて乗客が疲労するのを防がうとするもので、車輪から傳はる震動を巧なスプリングの配置と車体と蒸車との連結機構で車体へ傳えない様にしたもので、七〇軒時或は九〇軒時の高速で走つても、吊皮一つ揺れない。この電車は今國鐵電車と二、三の郊外電車に採用されて試験中であるが好評を博してゐる。熱力學的に効率の低い蒸氣機關車に代つて効率の高い、従つて經濟的なディーゼル電氣機關車や、石炭の微粉を燃料として驚異的な性能を發揮するであらう。ガスタービン機關車の實現に鋭意研究を重ね再建の一翼として活動をつづけてゐる。

(筆者は中日本重工業株式會社三原車輛工場計畫部長)

都市農業への近道

新 宅 義 人

昭和十一年秋三原市制の施行と共に、商工農漁各界に亘つての急速な進展によつて、茲に人口は五萬を突破、なほ將來に向つて限りない隆盛を期待されることは、市民各位と共に悦ばしい限りであります。

私はこの躍進をつづけて居ります三原市の一農民として、都市農業を織り込んでの發展に寄與したい。亦都市の發展如何はその周邊にある農村に及ぼす影響が非常に大でありますので、廣く三原市を中心とした共

セメント工業と三原

田 部 有 藏

あらゆる産業の建設資材として、セメントは日本再建の基盤に立つて重要な役割を演じてゐる。三原運輸界においてのセメント原石の蓄荷及セメント製品の發送は、そのトン數に於て最高を占めてゐると思はれる。外資導入の面から見ても、將來輸出品としての活躍が期待されるので吾が三原の優秀工業製品として、その操業に拍車をかけなければならぬ立場にある。

この爲めには幾多の困難が横たわつてゐる。例へば電氣料金及運賃並に貨銀の値上げ、ドル資金の不足、輸入統制の強化、外國品の進出、ポンドの切下等の問題があるので樂觀視した經營は許されない。これに對處しての企業の合理化や能率の増進に努めて、この難關を突破しなければならぬ。

セメントは石灰石粘土鐵滓等の調合原料を、石灰で焼成して製造するものであつて、原料としては何れも國産品でないものはない。即ち國內資源利用の代表的工業であつて、戦前既に世界に有数の産額を示し、然も品質の面で最高度の信用を博してゐた。戦後も他の産業に先がけて復興し、外貨獲得のため輸産業としてクローズアップされた。三原においての希望を述べれば、瀬戸内海の掃海並に糸崎港の貿易指定港認定の急速實施である。

日本セメント糸崎工場の沿革については、御承知の通り昭和七年故森田福市氏の創立に成つたもので、日東セメント株式會社と稱してゐたが昭和十六年淺野セメント株式會社に合併された。爾來アサノセメントとして、業界に君臨することゝなつたもので、終戦翌々二十二年日本セメントに改名の上今日に至つてゐる。

現生産能力は、長さ六〇米の回轉窯二基をもつて一貫作業を行ひ、月

榮園を形づくることにも心してゆきたいと思ひます。

三原市の農家は殆んど兼業農家で、専業農家として立ち行つてゐるのは極く少數であり、その上舊六ヶ町村地域ごとく經營條件を異にしてゐる状況でありますので、その經營に當つては餘程の研究と勇敢なる切替が要望されてゐるわけでありませぬ。

然し乍ら目下としては、主要食糧の増産が第一義で、是を供出と自家保有に當て、一方土地の利用度を高めて、地域的に特産物或は適地適作の工夫をこらして、農業經營の合理化に努めて經濟の自立を計らねばなりません。

尙又増産並に營養源確保の目的を以て、有畜農業の奨励は必須の事柄でありませぬ。敷え來ると改良したい事柄は限りなくありますが、品種の改良例へば本市の農林十八號の作付結果が其の増收を示してゐること土地改良による増産、試験的栽培研究による園藝作物の隆盛等舊來の習慣の一貫營農を脱皮して、科學的考察の下に一步一步前進したいものと痛感して居ります。

何んと言つても農業は産業の礎であり、惹いては日本再建となるのであります。矢張り農業は幾ら科學化機械化しても、それ相當の勞力を必要としますので、休を休める即ち農村慰安の道を開いて一家部落が團樂の一日一夜を作るようにしたいものと思ひます。慰安は享樂でなく、文化を高め、研究を深め、封建性を捨て、眞に美しい都市農村を形成することにありませぬので、こうした點に吾々若き者の力が是非結集されなければならぬと考えます。

農民は農民としての誇りを持ち、街との連繫を保つて共に福利の増進に努めたい。一丸となつた三原市商工農業の躍進を計るならば、文字通り商工都三原、田園都市としての出現となり、集り參する市民も近く十萬を越ゆる盛況となるであらう。それを待ち望んで居る次第であります。

(筆者はみつち會三原支部長)

喫
茶 小 鈴
三 港 原 市 町

産九、一〇〇トンを目指してゐる。又動力は回轉窯の餘熱を利用して、自家發電を行われるようになってゐる。

セメント工業の一大躍進が三原とツツタリ結びついて、然も市民の幸福の上に少しでも役立つよう念願してゐるが、このためには經營主と働くものゝ理解並に大方市民の御協力を得たい。觀光三原地誌發刊を祝しつ。

(筆者は日本セメント株式會社糸崎工場總務課長)

農業災害共済制度について

新 宅 實 藏

日本農業民主化の根本的な政策の一つとして、農業災害補償法が制定せられました。この制度は新しい農業を建設するための基盤を爲す重要な制度でありまして、災害より農家を護り農業經營の安定と、農業生産力の發展に資するのを目的としてゐるのであります。我が三原市は都市とは云えその地域の大部分が山岳地と農耕地より爲り、その意味に於て本制度に則る三原市農業共済組合は最も重要な意義を持つものであると信じます。三原市は地理的に見まして背に山を負ひ、前に海を抱き、沼田川の河口に位して地理的にも氣象的にも農業經營者にとつて、各種角度よりして非常に多くの災害と闘はねばならぬ状態にあります。

即ち山間部に於ては近年野猪の出没夥しく、これがため農作物の蒙る被害は甚大なものがあります。沿岸部に於いては耕地一帯に塩分の湧出又は高潮のため海水の浸入屢々あり、農業に従事する者の常に寒心事とされて居ります。災害の補償制度は根本的に樹立されたい、と言ふのが三原農民の要請でありまして、また地理的に見ても未だの防止が困難視されてゐることは事實であります。組合は農家への補償を最大限に行へるよう、農業經營安定の一助になるよう努力したいと思ひます。

然し乍ら本制度と災害の防止とは不可分のものでありまして、あらゆる技術と資本の導入により損害の未然防止又は擴大防止に萬全を期し共

濟事故そのものを相當防止或は輕減することが直ちに食糧増産對策とも
 一体化し、これが根本であり理想であることを忘れてはなりません。
 (筆者は三原市農業共済組合組合長理事)

鐵工業の將來

七 寶 豊

三原市には三十餘りの鐵工業者がありますが、その殆んどが修理加工
 業者であつて、所謂製産業者はその内一、二を數えるのみで、従つて一
 つの仕事を奪ひ合ふと云ふような現状に置かれてゐるので、所詮採算が
 合はなくなり、企業は不可能の状態に追ひ込まれつゝあるようだ。業者
 は従來の利己主義的觀念をうち捨て、企業を合理化又は合同して弱小企
 業より中企業へ向つて發展して行くように努力すべきではなからうか。
 現在三原市においての大企業工場である帝人、中日本重工、東織、日本
 セメント會社等の外註工事は殆んどが、他都市の業者に發註吸收されて
 居るわけで、これ等の諸工事を三原市の業者で完全に消化出来るような
 設備と能力のある中企業會社を新たに設立するか或は弱小企業を合同し
 て中企業に發展させるかの二つの道があると思ふ。

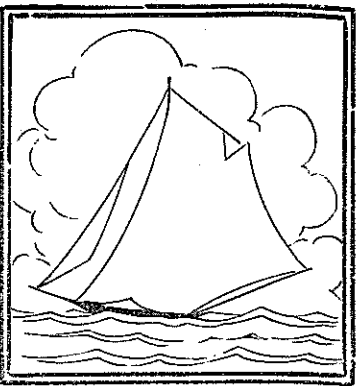
業者は修理加工より更に一步前進して、中企業メーカーとしての確固
 たる經營方策を講ずることが急務であり、斯業の發展はこの結果に俟つ
 ところが多いと考へて居ります。

(筆者は七寶工業所長、商議)

洋服の御仕立は

セイワ洋装店

男子・婦人・子供服



陸運
海運

三原經濟座談會

◎ 語る人： 三原驛貨物主任 佐藤 弘
 日通三原支店長 前崎 浩
 三原地區機械船事業 協同組合 理事 長、原 初太郎
 加藤海運三原出張所長 竹 本 幸 雄
 ◎ 時： 昭和二十五年二月十日午後
 ◎ 場所： 日通三原支店において
 司會—本誌 主幹 楠 務

主幹 大變御多用中のところを御集り願つて
 恐縮ですが、三原經濟のパロメーターである、
 “陸の荷物” “海の荷物”の動きについてお話
 を伺ひたいと存じます。

先づ陸の荷物の出入について、貨物主任さんか
 らどうぞ次々にお願ひ致します。

佐藤 驛貨物では、昭和十五年以降過去十ヶ
 年を通じて、品目は餘り變つてゐないようだが
 數量においてはその年々によつて一様でない。
 品目別に大体の割合を申し上げると到着荷物で
 は三原は消費都市の勢が矢張り主食が三〇%で
 筆頭、これに次いで工場原料の二〇%、青果物
 一〇%、其他四〇%—發送の面では帝人三〇
 %、東織二〇%、工業原料藥品一〇%、酒一〇
 %、木材柑橘一〇%、其他二〇%と言ふ處で
 現在一日の發送は約一二〇トンで、到着が一八
 〇トンから二〇〇トン位で、昭和十五年一日平
 均は發送八、九〇トン、到着一三〇トン位であ
 った。

みなと糸崎

岡 崎 貴 補

世界にしたら、みなと糸崎
 も一世紀前には金髪銀髪のマ
 ドロさんで賑つた。絃歌の
 灯影に足をとどめて、あゝ美
 しい街だ”と言はぬものはな
 かつた。

戦前戦後にかけて、なつか
 しい灯が消え失せて、今は昔
 をしのぶ、あちこちの孤灯の
 み。しかし平和の鐘近く、み
 など糸崎もまた榮えの微が見
 られる。

驛も、港も擴充され、車輛
 やセメントの生産輸出は、糸崎
 の受持つた大きな仕事。海は人
 の働き場、グリーンの音は榮
 えゆく港のしるしだ。

海抜五〇〇米餘、名勝鉢ヶ峯
 より見渡す、みなと糸崎”の彼
 方に、大島小島の景観がある。
 自慢じゃないが、みなと糸崎
 きや三原の名所だ。
 (筆者は糸崎港口住)

喫茶 喫茶
 洋食 洋食
 みつわ食堂
 みつわ百貨店階上

美術謄寫・オフセット印刷

三原プリント社

三原市新港町

のは、バルブ一萬トンの入荷ですがに工業都
 の躍進を物語つてゐる。
 原 セメント原石の最近月入荷は一二、〇〇
 〇トンにも達してゐる。
 佐藤 機械船の稼働距離は
 前崎 阪神、若松方面へどんどん出て行つて
 るからね。
 竹本 セメントが一番遠征しますね。
 原 肥料も増加してゆくばかりでせう。
 佐藤 陸運の行動距離は
 前崎 遠くは八〇キロにも及んでゐる。神戸
 大阪へは度々行かねばならない。
 主幹 少し話題を變えますが、三原驛の移轉
 と運輸の關係について—

前崎 驛の移轉、驛前の擴張は必然の事で今
 のまゝでは、小運送が三つも集まれば仕事にな
 らない。これが完成すれば荷役努力は三倍に飛
 躍して然も引込線を入れることによつて、陸荷
 は倍加すると思はれる。三原の發展はこう言ふ

ところから發足するでせうね。

佐藤 驛の移轉については歴史がありますよ。昭和十六年改築の話が持上つて、設計までしてゐたのに熱意の點で敗れたと言ふのか、その設計をみ下松驛にとられて了つた。

(一同笑聲)

前崎 今年には實現しよう、祝賀會の話をしてゐるのがあるぞうだからね。(一同爆笑)
主幹 ところで話を海の方へ向けて載けませんか。

前崎 他都市へ出張してよく言はれる、三原には港があるのかねーとね。全く冷汗ものですよ。私は護岸の改修を急速にやつて貰ひ、向岸の五〇m掘立も急を要する問題だと思ふ。亦水路が悪いから、これも是非直したい。

原 海に對しての認識を深めて、その施設を完成することが第一で、そうすれば荷物もふえ荷役も樂で市としても収入が増加して然も失業救済ともなるわけだ。吾々としては外國船を入れて荷物の出入を多くするために、貿易指定港の敷願書をその筋へ出してゐるので、舉市一体の協力を要するものです。

前崎 指定港となれば市財政も潤い、業者も市民も救はれて来よう。

竹本 今の港灣施設完備の問題ですが、この機會に希望したいのは、市に港灣課若しくは、しっかりと港灣係を設けて推進して貰きたい。さし當り港の清掃、給水施設、共同便所の設置棧橋の整備等部分的問題ではあるが、保健、

荷役の面から見ても亦市の体面からしても是非實現して貰いたい。

前崎 市營倉庫も欲しいね。

佐藤 施設を完備して、それを最高度に利用することを考えないとうそです。その點海は陸に敗れてゐる。

原 全く多くの荷物を運んでくれる海を忘れてゐますよ。

前崎 糸崎港は世界的に有名である。三原市はこれを忘れてはならないのであつて、町の發展は港から出せねばうそです。佐藤 全く港あつての市ですからね。

竹本 三原港は素質において、立派な港ですからこれを育てあげてゆきたい。

前崎 物資の集産地としての展開も、先づ港の改修と宣傳を忘れてはいけない。そして新航路をどんどん開拓してゆくことだと思ふ。主幹 皆さん、その外になにか。

原 終戦後とかく日本人はいぢけてゐると思ふんだが、もう少し明かに物事を勇敢に處理して行きたい。例えば一寸不景氣になるとペシャンコになつてしまつて、その原因を探究するとか、お互に話合ひを進めるとかの工夫が欠けてゐるよと思ふ。

前崎 それと協同体の運営だが、お互はお互の福利を目指してやつてゐるには相違ないが、矢張り日本再建と言ふ大きな責任を負はされてゐると思ふね。

竹本 生存競争が益々激しくなつて来るの

興味ある三原市民の動向



三原市は商工業の躍進によつて、急速な發展途上にあるが、さて最近の動向について市統計課の数字をのぞいて見ると――

人口は累年増加して、現在では戸數一一、〇〇〇戸、昭和十一年の七、一〇〇戸に比べて、三、九〇〇戸の増である。人口は約五一、〇〇〇人で、昭和十一年の三五、〇〇〇人に比べて一六、〇〇〇人の増となつてゐる。

三原市は女の街である。男より女が三、〇〇〇人も多いのは工業發展による女工さんの増加と見てよい。特に面白いのは出生と死亡、結婚と離婚の對象である。年中を通じて出生一一、六一七人 死亡一五九六六人 結婚一五八六八人 離婚一五六六六人 これを見るとよく生み、長生きの町と言えよう。亦よく結婚し、その離別は微々である。因に年令別、男女別人口を参考とする。

年令別	性別	總人口	男		女		男(100人)に付る女人口	全人口に對する年令割合%
			人口	割合%	人口	割合%		
一歳	一	二、四〇四	一、二〇〇	五、七六	一、二〇〇	九四%	三・五%	
二歳	一	二、七〇〇	一、三〇〇	五、三六	一、四〇〇	二九%	三・一%	
三歳	一	三、〇〇〇	一、四〇〇	四、九六	一、六〇〇	二四%	一・八%	
四歳	一	三、三〇〇	一、五〇〇	四、六六	一、八〇〇	一九%	一・三%	
五歳	一	三、六〇〇	一、六〇〇	四、三六	二、〇〇〇	一四%	一・〇%	
六歳	一	三、九〇〇	一、七〇〇	四、〇六	二、二〇〇	一〇%	〇・七%	
七歳	一	四、二〇〇	一、八〇〇	三、七六	二、四〇〇	一三%	一・〇%	
八歳	一	四、五〇〇	一、九〇〇	三、四六	二、六〇〇	一〇%	〇・七%	
九歳	一	四、八〇〇	二、〇〇〇	三、一六	二、八〇〇	一四%	一・〇%	
計	一	五〇、六六	二四、三三	二六、三三	二六、三三	一〇〇%	一〇〇%	

三原市の誕生

その地勢と沿革

三原市は廣島縣の東部瀬戸内海の沿岸東經一三二度二分北緯三四度二分の位置にある、東は尾道市に隣接、西北は御調、豊田の兩郡に境して、南一帯は内海に面した總面積七〇・四八平方メートルの東西に長い都市である。

市の北背は山地に覆はれ、中央を貫流する沼田川が海に注ぐあたり一帯は地味極めて肥沃で天恵的な農地である。三原平野が開けてゐる。

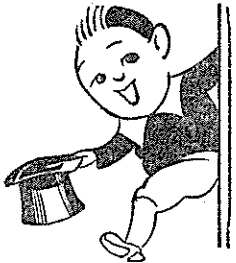
三原市は元御調郡に屬してゐた三原町、糸崎町、山中村及び西野村と豊田郡に屬してゐた田野浦村及び須波村の六ヶ町村が合併して昭和十一年十一月十五日を以て市制を布き全國一三三番目の市として誕生したのである。

三原町外三ヶ町村は遠く平安朝時代より「三原郷」「三原庄」又は三原浦の異名がある。永録年間、小早川隆景公が三原浦内の大島、小島を連れて三原城を築造してから城東を三原東野村(木原を含む)、城西を三原西野村(山中を含む)に分けた。後淺野家の領地となつて木原、東野、山中、西野、須波を以て三原城下五ヶ村と稱し、此の頃より田野浦村のみは上田領に屬したのであるが、諸般の交渉は何等従来と異なる處はなかつた。

斯くて歴史的にも地理的にも極めて緊密な關係にあつた六ヶ町村が偶々其の規模の大、設備の充實で本邦第一を誇る帝國人造絹絲三原工場の設立を契機として合併し、三原市の誕生を見たのである。

城下町としての古い傳統と新興産業による新しい息吹とが顯著な對照をなしてゐる。

内外諸物産卸商
山文物産商會
 代表 山本 文達
 三原市港町 電四六一番



婚禮衣裳着付
パーマメント中野美容院
 三原市西町

御存知でかす

- 問 ~ 市内民有々税地の面積は？
● 答 ~ 田380町歩、畑450町歩、山林3,340町歩、其他約100町歩
- 問 ~ 市設氣象観測所による年中気温の最高、最低及平均は？
● 答 ~ 最高34度、最低0.9度、平均15.4度(23年C)
- 問 ~ 市歳入の主なる種別を%で？(24年當初豫算)
● 答 ~ 市税 53.3%、市債 20.3%、國庫 16.4%、縣費 4.7%其他
- 問 ~ 市歳出の五種類額について？(24年當初豫算)
● 答 ~ 教育費 3,000萬圓、社會勞働 2,000萬圓、役所費 1,800萬圓、警察警防 1,400萬圓、土木費 1,000萬圓(其他略)
- 問 ~ 圖書館での閱覽者職業別人員？
● 答 ~ 生徒兒童 20,000人、有識者 2,000人、公務自由業 1,500人、工業 1,400人、無職 1,200人、商業 300人、農業 100人、其他
- 問 ~ 專業農家の戸数及人口は？
● 答 ~ 778戸、4,238人(昭23.8現在)
- 問 ~ 家畜の頭数は？
● 答 ~ 牛 702頭、馬 33頭、豚 164頭、山羊 67頭、綿羊 45頭、家兔 794頭、あひる 182羽、にわとり 4,447羽 其他
- 問 ~ 市内の神社、寺院、教會の数を？
● 答 ~ 神社 13、寺院 32、教會 15
- 問 ~ 電話加入者数とラヂオ聴取者数は？
● 答 ~ 電話加入700戸、ラヂオ聴取 4,450戸(100分比41%)
- 問 ~ 市内各種勞働組合数及組合員数は？
● 答 ~ 24年7月現在で組合45、人員 18,000人(市民の3割9分)

三原讀本



興産茶話集

郵便局の廣告業務

平原春夫

貴重な紙上を拜借して郵便局の廣告業務を語るの、一寸うしろめたない氣持ちであるが、これも「廣告はあなたの業務の羅針盤」でその行き方も尖端を走り、然も開店早々なので一般へ紹介宣傳させて戴き、少しでも産業其他の發展に役立てたい念願からでありますので御諒解願ひたい。

廣告條例にふれず、風紀を乱したり、安寧秩序を害するようなもの取扱われない。つまり廣告の媒体をするのである。例えば

郵便局公衆室の掲示板ポスター
郵便局公衆室に掲げる額面廣告
屋外掲示板の設置
郵便切手帳(切手二〇枚綴込)
官製封筒(八圓切手印刷二重封筒)
自動押印機のスタンプ(ハガキ消印利用)
其他郵便貯金振替用紙、壁新聞、ポスター、カレンダー、チラシ、保險證書收納袋等の媒体物を利用して、廣告の求めに應じる。

さてこの料金であるが、これは廣告種別、廣告期間、規格等において差があるけれども官廳のやることであるから高くは出来ない。喜んで

加入され然もその効果が顯著でなければならぬことになる。局で精細研究され安心して申込んで貰いたいものである。

近來余り景氣がよくない。官廳へもその風當りが強く、じつとして居れないし、市民の皆様にも少しでも福利を興えたいと思ふのであります。

(語る人は三原郵便局長)

三原の柔術

二井 怜

昔は三原の武術は盛であつた。武者修業者の間では「廣島一日、三原三日」と言つてゐたものである。柔術も武藝十八般の母体として修業を怠らなかつたもので、難波一甫流、澁川流、起倒流、關口流、不遷流、貫心流等の傳記は有名である。

三原誌考中「武術師範家一覽表」に柔術師範の記載があつて、詳細は不明であるが、参考のために掲げると

難波一甫流、波田與左衛門
澁川流、波田野吉右衛門

の二人は三原城主の家臣であるが、廣島詰となつて廣島に主として居住してゐたと言われる。亦三原在の村上彌太郎があるが彼について

監査委員の制度

石原 見三

かんさい、人は何をやる役かよく質問を受ける。地方自治法第九十九條を御覽下されれば判ります。ミ突放す譯にも行かず、普通地方公共團體の事業の管理や出納を監査する等々を解説するがこれがまた仲々むづかしい。随分苦心して説明しても相手は納得した顔をしていない。そして次の質問は大抵委員は「何人いるか?」である。「三原は二人だ」と答へると、「たつた二人か?」と更に不審顔をするが次に「手當は?」と来る。「年俸一萬圓もつてゐるよ」と答へると、「ハハ、では大した仕事も責任もないらしい」と勝手な相場をつけ大體判つた様な顔をして引上げる。

廣島縣下五市の監査委員は時々集つて協議會を開くが、一つの議案に對して甲論乙駁結局個人意見の出しづ放して、一致した結論の出る事は先ず減多にない。監査委員の権限を調べると、その奥行の深いのに我乍ら驚き、強い責任感に迫られるのである。

監査委員の仕事は人員構成や手當の額で判断出来るものではない。又委員の學識經驗が書だけがその仕事の性格や結果を規定するものでもない。

終戦後生れた監査委員制度の成果は新しい社會倫理の上になつた監査委員の人がこれを決定するのであつて、例えば豫算執行の是非、若しくは發見した不正の根源、壓力による事務者の非民主的勤務状況等地方自治行政面においての責任は大であつて、つまり「ハハ、ン」ではすまされぬ存在なのだ、この眞の目的を達するには職域各自の理解と協力が是非必要である。

(筆者は三原市監査委員)

てその流派は判然しない。

その他、一徳流、流祖中川徳三郎(楠平是明治十三年七五才没)の碑は三原市西町法常寺にあり、彼は三原城主に仕え、小野流小島鐵太夫より武術の奥技を受け、苦心努力の結果、一徳流柔術と稱し、明治維新に三原柔術に貢献してゐる。現在もこの柔術を保持せられた故中川峯助門人である中川寅徳(三才)太田佐平(七才)梅田季吉(志才)が現存せられてゐる。

こうした柔術史を経て、現今の柔道に進展したのだが、さてこれから三原柔道史がどうでゆくか。三原のためにその發展を祈つてやまない。

(語る人は講道館六段、館町二井道場主)

中小商業者の立場

兒玉 岩吉

講和を前に中小商業者の苦しみは深い。今やどうにもならないと言ふ商店も少くない。これは一休どうした原因からこうなるのであろうかと、眞剣に洞察して見ると、その原因については種々の見方もあるようであるが、私は先づ第一に課税の問題を取上げたいと思ふ。

即ち課税の公正は最も望ましいが、たとえ公正に課税されたとしても、その根源である税率

三原ハイキングコース



- ◎後山、鉢ヶ峯、福寄コース……中之町常永より後山を経て鉢ヶ峯に至り糸崎町福寄に出る。徒歩約四里。
- ◎久山田、鳴瀬、後山コース……中之町より深田村を経て久山田に出て鳴瀬、後山に歸る。約五里十町。
- ◎三原、久山田、尾道コース……中之町より久山田に出て尾道市に至る。四里。
- ◎大谷、龍王、コース……中之町より高峯、龍王山の頂上を極め南方駒ヶ原へ下る。約四里十五町。
- ◎大谷、垣内、恵ヶ谷コース……中之町より高峯、龍王山の頂上を極め南方駒ヶ原へ下る。約四里十五町。
- ◎大谷、垣内、恵ヶ谷コース……中之町より大谷を経て八幡村、宮内、垣内に出て恵ヶ谷を経て歸る。約五里一〇町。
- ◎恵ヶ谷、垣内、佛通寺コース……八坂町恵ヶ谷より八幡村垣内に出て佛通寺に至り高坂村小坂沼田下を経て三原に歸る。約八里。
- ◎三原、白瀧、忠海コース……三原より沼田東を経て小泉村白瀧に登り更に峰傳ひに黒瀧山に出て忠海町に下る。約四里五丁。
- ◎和田、畑、須波コース……和田より畑山に登り須波驛に出る。約二里。
- ◎新倉、夜船、畑コース……新倉、本谷、夜船を経て畑高地に出て和田町に至る。四里一〇町。
- ◎三原、畑、後路、忠海コース……和田町より畑峠を経て幸崎町後路に出て、更に忠海町に至る。約三里二〇町。
- ◎三原、夜船、幸崎コース……田野浦町本谷より夜船を経て幸崎町に至る。約三里
- ◎三原、瀬戸田コース（海路）……關西の日光と言われる耕三寺は瀬戸田町にあり、伽藍の廣壯、寶物參觀に三原港より海上バスの便あり又須波よりも渡船出来る。約三〇分。

保健と観光

が高いのだから、法律が改正されない限り商人は救はれないと言ふのが現実であろう。

例えば、廿萬圓の収益を見られて九萬圓を納入しても、まだ十一萬圓残るといふ計算にはなるが商業といふものは目に見えぬ雑費が入り仕入も次々としなければ繁昌しない。これに加えて賣れ残り、汚損腐敗する物が多い。ましてや利益の中から生活してゐるのであるから、数字通りカツチリ來られては、どうにもならぬと云ふことは誰しも諒解出来ることであつて、つまり税率をもつと下げて然も査定を含み、公正の徹底を期して貰ひたいと念願して居るものです

(語る人は三原市産業委員長)

三原の魚

久保正

三原は内海の北岸にあつて、もろもろの魚が集つて來るせい、漁師も多く従つて市民は新鮮な魚を得られ、縣下五市中最も恵まれてゐる東町を中心にして港々に漁師のたまりがありその数は一千にも及ぼう。親爺は海に、お神さんは街に小車をひいて商内をする習慣は三原名物の一つである。この是非は別として豊富に新鮮なものを得られることに間違ひはない。

三原の捕魚は市内で消費しきれぬので、京阪神方面への移出も多い。特に名産鯛の漬焼、たこ、えびの類は賞味されてゐる。

(語る人は三原水産取締役社長)



三原八景

尾田泰月作

- 西野の梅林
- 旭の丘に六瓣の梅香りけり
- 目刈の歸帆
- 真帆片帆大鷲小鷲麗なり
- 宮沖の青嵐
- 松の中見え透く道や青嵐
- 山中の時鳥
- 時鳥十一面の空あたり
- 眞觀寺の秋の月
- いつも見る月なれど又秋の月
- 沼田川の朝霧
- 山々の動くかに霧湧き立ちぬ
- 妙正寺の暮鐘
- 時を告ぐものと知りつゝ秋の鐘
- 米田山の暮雪
- 夕陽にきらめく雪や米田山

糸崎小唄

作詞 榊原昇

- 一、港明るい糸崎の
天神山の花盛り
花のぼんぼり美しく
そぞろ歩きの二人づれ
- 二、ボート浮べて影三つ
長井の浦の夕涼み
風はそよぐ月は澄み
晴れた夜空に流れ星
- 三、どつと湧きたつ関の聲
糸崎神社の晴土俵
化粧廻をいきにしめ
紅葉散れよと四股を踏む
- 四、繪にも勝れるあで姿
御山の峰に降る雪の
雪見の酒に日は暮れて
夜半の天地は銀世界

職場探訪記

※この事務所でも、ドアを開けたときにその能率振りがわかる。どの人を見ても喜んで真心から働いてゐるからだ。

※前店主から店員に至るまで、一家をあげて親切な店によく賣る。少々値段はさうでも買つておこなる。

※團結を言ふのは恐ろしい力を持つ。理解ある経営主の下で、働く者の一丸となつた成果は工業を一〇〇%以上に躍進させた。

※農業は見た目のように楽でない。それに加えて一家がこれだけして、部落がもめるようでは、その勞苦は何にたさへようもあるまい。

※この御家庭を訪問しても、その主婦の振舞でその家の全体が察知出来る。あゝ、この家は、ミットの主人は氣の毒だと思ふことがある。

※話上手と熱意は認めるが、一人でしゃべつたり、二つ事なくぐぐぐとやつては何事にも失敗が多いと言ふもの。

男女御美髪は

岡田理容院へ

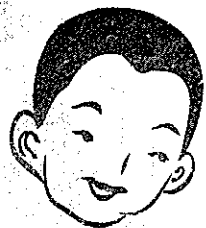
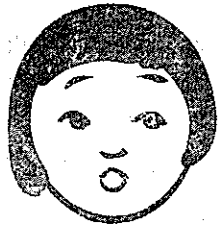
糸崎港口

小料理御飲物

鈴らん

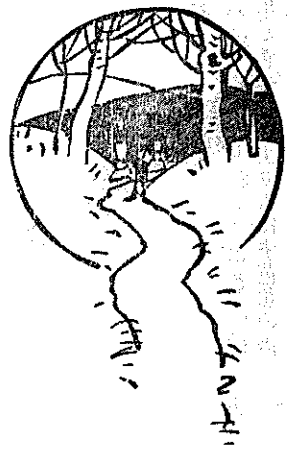
三原駅前





官公立市内諸學校

學校名	町名	校長名	教師數	生徒數	電話
幼稚園					
三原幼稚園	館町	水教三雄	4	171	
三月見幼稚園	西町	井達田	3	130	
糸崎幼稚園	糸崎町	藤伊西	3	200	
昭和幼稚園	東町	小島文雄	5	200	
愛光保育幼稚園	館町	福原由勝	5	135	
師範附屬幼稚園	館町	池田勝人	2	77	
小學校					
三原小學校	館町	三之二夫	59	2834	103
糸崎小學校	糸崎町	勝愛一敏	14	1078	糸 31
木原小學校	木原町	岡安本	7	225	
中之町小學校	中之町	森中平	12	416	
西野小學校	西野町	宗賀岡	13	363	
田波小學校	田波町	須波登益勝	13	423	
須波小學校	須波町	池田勝人	14	425	
附屬小學校	館町		18	476	317
新制中學校					
市立第一中學校	糸崎町	昇藏雄登人	16	509	糸 120
市立第二中學校	糸崎町	武田誓靜	23	826	糸 156
市立第三中學校	宮須	秦田勝人	22	779	596
市立第三中學校分校	須波町	池田本良	8	216	
官立師範附屬中學校	館町		11	270	317
三原工業高等學校併設中學校	中之町		12	100	423
新制高等學校					
縣立三原高等學校	宮沖町	松浦宗義	39	1018	6
同校定時制	館町	兼務本良	12	287	
三原工業高等學校	中之町		30	400	423
大					
廣島大學教育學部三原分校	館町	林禮二郎	30	大學師範 31 192	102 226



想片

向井秀男

繪は美しくあらねばならぬ。それが油彩たる
と水彩たるを問はずその表現に最も適した材
料を駆使し、その用具を百百分生かさなければ
ならぬ。

ゴッホは油繪具の最高、最強度の特質を出し
た。繪は單なる自然の模倣再現であつてはなら
ぬ。例え自然美に打たれて表現するとも二次面
上に一つの別世界を築くことにある。その爲め
にはあらゆる手段を講ぜねばならぬ——あらゆる
手段とは美化することであり、歪形せしむる
ことであり、また構成し直すことである——

自然美に打たれることは直接の動機であり、
表現することは間接の動機である。感覺なき所
に感動は生まれぬ。感動なき所に表現は生じ
ない。素直にあれ——謙虚な心で自然に對せ
感情と感覺と官能と——この三つのカンどころ
藝術の繁華を常に身に持する人こそ、眞の
藝術家と云い得よう。

レアリズムは解る。キュービズム、シュール
アブストラクトは解し難い。繪畫が進みすぎる
のか、大衆が愚鈍すぎるのか——

美術を解せる人、それはもはや大衆ではあ
り得なくなつてゐる。その他もろ／＼の藝術
みな然りであろう。藝術に捧ぐべきか、大衆
に奉仕すべきか。心と糧と。心は藝術であり
生きんが爲には大衆に主にならなければなら
ぬとすれば、これぞ藝術の悲哀である。

繪は美しく、明るく、逞しくありたい。健
康たれと繪畫は私を勵ます。畫面のどんな些
少の部分を切取つても美しくある繪。それは
大したものだ。畫面上の不要の部分、即ちそ
れは有害であるとマチスは説く。より美しく
より明るくあるためにマチスは純化した裝飾
的であると云われ、より眞を描かうとしたク
ルーベは眞のレアリストであつた。

だが、そのやうなことを冗々と述べるので
はなかつた。私の仕事は——スケッチ箱をさ
げて先づ「風光を見る」ことにはじまる。

西野梅林

此里の梅のさかりは野に山につもれるゆき
の匂ふなり 菅茶山

梅觀橋にたゞすめば今は昔ほどの數もない

村の老夫は私に「この梅林はわし(私)が小ま
いにやア、あの山も、こつちの山も皆梅ばつか
しちやつたよ」と農畝でゆびさし教えて呉れた

頼兼山眺望

いつは繁つた青葉の窓から三原灣に向い合
つて、頼兼山の丸い顔が出る。

イーゼルを立てると、沼田川と三原新開が、
頼兼山にマツチして、たくみにコントラストが
とれてゐる。

その眞ん中を眞黒い汽車が、眞白い煙を吐
て居る。すばらしい景だ。

須波

布き散るや驛の櫻葉
花よりも赤きわくら葉
木下徑わがもとほりて
はらからを遠く思ひき

秋さらば收穫うれしき
いちぢくよレモンよ甘諧よ

日の中に蜂飛ぶ見れば
枇杷の木に花咲けるらし

(筆者は畫家)

新装なれる ビューティ・サロン
パーマメントウエーブとセットは

立神美容院

三原市市人通り



原俳壇

(順序不同)

(三原城址)
 蟬はその榮枯をよそに鳴きやまず 竹中 白愁
 (兼影山麓にはそのかみの平家の後裔が住むとか)
 秘史ありと來しが雲雀にたたれけり
 川底に空 籠一つ冬の川 吉井 卷石
 冬の川流るゝものも無くて暮る
 (佛通寺)
 徑ほそくせゝらぎ高く谿もみち
 いちめんしに櫻落葉の裏表
 白菊や今日の疲れを粧へり
 縫初めや母や手織の伊豫紺
 日矢さむく眞のけむりつらぬける
 星凍る葉と林檎買ひに出て
 紅梅の枝の緑のことさらに
 紅梅のこの一枝の好もしき
 四界白鐵路二筋陽の果に
 療養所の友より便りひさめふる
 (西野梅林)
 梅ヶ香や籤鷺の聲 牙ゆる 尾田 泰月
 山波をすべる秋風身に沁みる
 (妙正寺晚鐘)
 山路来て句碑に佇み梅に立ち 矢吹 安夫
 (西野梅林)
 梅咲くや庶民住宅に陽が回る
 春日和山緒訪ねて妙正寺
 暮れの雪筆影山を仰ぎけり
 六瓣の梅 藪都と芭蕉の碑
 梅ヶ香や立ち去りも得ず芭蕉の碑
 狭川 蕉宇

御調井のゆかりは古りて夕時雨
 双鷺洲霞に消ゆる眞帆片帆
 佇むや春雨静か芭蕉の碑
 名所として此處も花見や西の宮
 西野風梅は芭蕉を香に呼べる
 千疊に月隈もなき櫻山
 梅林に吾影延びて家路つく
 爐明りに老爺は語る御調の井
 名月や茶の香ただよ無量庵
 朝霧か西野の梅か土手長し
 芭蕉碑にこぼるゝ梅の齡かな
 御世の花呼ぶ碑や妙正寺
 夕映の筆 影山や 鱗雲
 紅梅や未だ山々に眠り居て
 赤き日にわびしお濠の浮寐島
 青嵐や海へ流るゝ鉢ヶ峰
 海に映ゆ筆影山の暮雲かな
 春雨や糸崎情緒下り松
 梅探る西野の里の朝朗け
 漁歌情歌長井の浦の日永かな
 (長井の浦)
 思ひ出は我が眼に遠し浦の春
 春の陽に綱干す舟や長井浦
 月を追ひ落ちゆく雁や木原灘
 名月や漕がぬ舟あり長井浦
 南風や目刈の歸帆宙を驅る
 妙正寺の梵鐘が晩秋限りなし
 青嵐や宮沖を馳る汽車の窓
 近藤 召風

工場のこゝに及ばず梅の里
 旅衣纏けば長井や十三夜
 春廊長井が浦の浪 枕
 沼田川の流れて虹の六本へ
 沼田川の流れて鴨の菜直なる
 春湖の沼田の橋より大投網
 筆影山の映ゆる若葉に漕ぎ釣れる
 浮城の濠を真下に花の寺
 筆影の姿映して潮 麗
 山櫻嵌めて明るき城下街
 妙正寺花のとんねる登りつめ
 (西福寺)
 海光をまぶたに梅の寺ぬくし
 鴈高し城壁の蔭もみづるに
 糸崎の海へ灯り夏塵敷
 筆影山の國境松や初霞
 畑山の残雪鹿の背の斑とも
 沼田川の朝霧安藝をへだて峙つ
 落ちたまる椿明るき能満寺
 鐘撞いて花に暮れゆく宗光寺
 能満寺花のはさまに伊豫讃岐
 六瓣の由緒傳えて梅ぞ今
 浮城にとどめし森の初鴉
 葉月汐沼田大橋を浮べたり
 御調井の歴史尊し松の花
 天地の凍にはころぶ四季櫻
 物の皆春くる氣配夜の雨
 雑魚を賣る羹よごれの港町
 初東風や小波ひかる三原灣
 麥踏の影のび入日しづかなる
 曉暗に累々としてせり鮎
 上坂 讀護

沼田川や海に開けて大潮干
 沼田川の霧にかくるゝ列車かな
 梅咲いて道頓ふ人西野かな
 川霧は伸びて双鷺のあたりまで
 双鷺灯の秋めくを見き岬道
 春宵や車窓に消ゆる工都の灯
 雪解して老らくに生く甚五松
 山陽の四堂の記事や梅香る
 沼田川や朝霧深く海に落つ
 春風や目刈を上る船の數
 松林の緑深めて 青嵐
 (山中にて)
 時鳥啼くや夜明けの月淡く
 (沼田川)
 朝霧の浪立つ如くをそひ來つ
 (眞觀寺)
 訪れば和尙健なり秋の月
 夕陽に雪眩しかり米田山
 移る世や梅林の句碑埋れつゝ
 秋の月筆影山に伏警解く
 小鷺歸帆春雨煙る日もありぬ
 浮城や名のみ止めて風薫る
 工都尙梅の香漂ふ西野かな
 (眞觀寺)
 秋月や海は展けて日本一
 老梅の詩歌に名高く香りけり
 梅に來て語り明かしぬ西福寺
 青嵐や織姫嫁々と宮沖に
 (眞觀寺にて)
 歌に詩に日本一よ今日の月
 梅ちらばら芭蕉碑めぐり歸り來る
 時雨つぐ長井の浦のあけ小舟
 一安 澄月

灯ればヤツサ踊の町々に
 糸崎へ相つぐ歸帆夕焼けて
 秋晴や釣人ならぶ城の濠
 城あとの荒れたるまゝに春を待つ
 城あとや蝶とまりある落葉籠
 城あとの庵を埋むる落葉かな
 (註・馬子の水は駒ヶ原川の源
 近鄰第一の良水なり)
 馬子の水汲むに老鶯憚らず
 駿狩馬子の水まで足のばす
 紅梅の下の道より句碑の道
 (宗光寺)
 幾世歴る塔よ地藏よ秋の聲
 淨城の名残の濠に鳴く蛙
 言傳ても西野の里の梅だより
 (宗光寺)
 散る花や晚鐘古き音を傳ふ
 木犀や朝日を映す廣き縁
 東雲を頭に神明の群に居る
 梅林にそち昔日の陽に觸るゝ
 そのかみの梅のなごりも西野にて
 青嵐宮沖の濁光りつゝ
 一株のつゝに燃えて眞觀寺
 寂として隈なく月の眞觀寺
 (西野梅林)
 梅句碑と共に古りつゝ蕪りけり
 月代や山をめぐれば又新た
 寒鴉啼けば啼け城消えんとす
 (三原城址取壊しを惜みて)
 (西野梅林)
 中澤 源々
 井上 涼蛙
 井上 涼沙
 田中 稻子 曆
 宇都宮 大塔
 粕谷 由起
 中村 素翁
 岡崎 一潮
 稻田 杏坡
 中山 遊狂子
 村上 巨影
 白須 碧潮

麥踏や日に何やら深つゝと
 書初めの雪の字ことに美しく
 春泥に胸よごしたる家鴨かな
 茶と白と緑の原や春の雪
 鬼は外春立つ街の行莞れ
 冬の江に芥を捨つる星明り
 ひたぐと夜霧は町の中を來る
 寒明けの引潮はやき瀬戸に佇つ
 木枯や論のつきたる占者
 山々は色鳥を抱き日々澄めり
 海の色變えつゝ、雲逃げゆけり
 段丘のすみれ咲く徑海へ落つ
 囀りや町のそびらの墓の丘
 福耳が霜焼となり鬼耳に
 冬川に小石けり込む子供哉
 闇汁に借り來し鍋と粥風呂と
 人が磨りてゆがみし墨如初硯
 星涼し一片の雲あるばかり
 長き舌を啄木鳥ちよると出しにけり
 ラヂオより流るゝ朝の歌涼し
 大宇宙の講議を聴くや輝の雨
 初夏の海眞珠の色にかすみけり
 肖像の首の細さよ山陽忌
 九月十九日と絲瓜に書きにけり
 輝の蝶お城の濠を渡りけり
 夏帽をかきしきものに人の耳
 弄ぶ三角 定規 蟬の 畫
 (兼雲室に上りて月半居士を憶ふ)
 虎杖を師も召されしよ藤夕
 折りて歸り山藤活けむ去年の如
 梅白し朝の鏡に曇りなく
 柿の芽の湧然として古木なり
 田中 白外
 横山 三郎
 山根南扇子
 鳩野 笑子
 栗田 蒼洋
 佐藤青水草
 正田 晴雪
 豊田 雪兆
 木下 一
 加藤 規雄
 近藤 麥奴
 松本 男兒
 松本 島春
 松本 正氣
 宇野 瑞

宮本 洋月
 十河 秋月
 橋本 流筏
 本川 澄月
 小林 包春
 吉岡 市良
 三島 一士
 金子 興
 籤 吐月
 山下 正幸
 中島 宏樹
 吉川 宏
 藤本 子節
 近藤 召風
 矢吹 木鬼
 源間 不二
 橋本 草洋
 中川 一徳
 高峯 洋々
 有政 壺城
 大町 田々
 粕谷 乙男
 掛本三千代
 高橋愛玉子
 中山 笛子
 村上美代子
 田中 花椿
 堤 筑水
 上坂 讀護



短歌

寒日小吟

内川公忠

音もなく吹き溜りゆく雪の上に齒に沁む今朝の含漱吐き捨つ
峡のへに雪風ぎゆけばある時は硝子戸をこす鈍き斜光が
陽のあり處や、明らみておもむろに雪霏ふ雲の移りつゝあり
夕雲のくわしき峡よいづべともなき疾風すぐひとつ音に
月のいろは檜原に冴ゆれ夜の更を放心にちかき孤影ゆかしむ

紀行断唱

國下唐彦人

むぞうさに東ねた髪が生くさい行き過ぎし女よふりむくけはい
初めての港に君と歩みつゝもう旅愁は胸にしびれる
どこへいかなる人の一鳥なまりが返事を強ひる白水港は眼近にして
何と云う川か忘れてしまつた川にわし山羊がひとつの印象にありて
他愛なき言交しつゝこの土手に君少しおくれ草つみつくる

晦日夜

豊田清史

みな出し、通帳をポケットに納めつゝ寒の街に眼うるみし
四月より花活けざりし一年と缺けたる壺の埃拭ひをり
學歴の無き淋しさよ歸り來て星の降る夜を遠く嘆かふ
獨力の富井さんの聲厳かに除夜の放送をまだ續ける
鳴りやみし鐘もわかづに眠る妻健やかなれといのりにも似る

廢墟

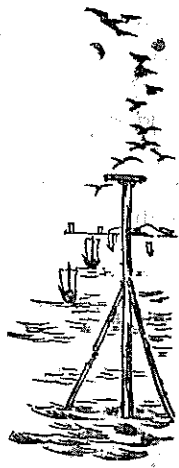
深川宗俊

冬草に觸れて小蝶の弱ければ廢墟に低き日に落ちてゆく
ひかり青き夕風に佇ちて野鳩啼けり壊え残るベトンに集つくる幾群
熱線の痕深くベトンに刻みいて殺戮の争い斷つすべなきか
陰りゆく廢墟に青き冬の草つぼみあれば觸れて涙ぐみにき
薔薇色に輝き流るゝ川ありて鐘鳴れば指さすノ・モア・ヒロシマ

青き塀

山中孝俊

職を得し頃の感激も淡くなりおのれを傷つけ人に使わる
反逆の思ひわき來て切なきにベンだこを削ぐひとりの室に
道化の如く一日のつとめ終へ歸る弱きおのれにまた苦しみて
甲斐のある仕事をしたしと思ふこと切なきまで今日に結論
熔接の光しきりに閃くに青き塀あり霧雨の中



村木下夕雨

村はあらひたての浴衣のやうだ
薄荷いろの上等でないサボンの匂ひがする
それはこわばつてゐてそして寂しい
けれど麥笛の音はじつによくひびく
僕たちは麥笛をならしに行かう

曇天村上菊一郎

眼に見えない駝駝色の小旗が空いちめんひる
がえつてゐた
一夜のうちに形の變る熱っぽい砂丘に涯もなく
つらなつてゐた
ユリヤンのやうに私は旅を續けてゐた 回教圏
の町から町へ
奴隷女の踊り 手品師の口上
サーカスの天幕はサフランの匂ひがしてゐた
銅版黏めく港市に潮風は流れて
物音のない雑踏がそこにあつた
幾つもの黒い候鳥が、黄昏の中を飛んでゐた

詩

歳月 國詩田方哉

こゝにも大きな紡績會社が 建ち
風呂鏡のない石油タンクが
海をあらす 尙更あらされてもい、
この海を越えて
出漁する人と人との 歡聲は
こゝにも きくことが出来る。
けれど 人と人とのお喋りが
忘れられてゐるやうに
忘れられぬ お伽噺の如き
ひとときを 襪雨にぬれながら
古風な帽子に
つもつた埃を た、いてみる。

催眠歌 角田寛英

東京へ行かうといふ
箸と茶碗の貧しさでも
心ゆたかな日を送らうといふ。
まゝごとのやうな味噌汁と
どんな場末のせまい部屋でも
明るく灯だけはつけようといふ。
白い頁に折りこめる夢もなく
いつも肩張つて生きる
ふるさとは疲れはてた。

寂

光

佐竹信朗

朝夕の冷えいちじるしこぼろぎのかまどによりて夜を啼きつづく
庭隅の空の鷄舎に生ひしまゝ亂れ咲きたりそばの白花
掛け急ぐ稲架の上に刈り込みし萍の花揺れてゐにけり
月光のいよいよ冴えて小山田に稲架立てゆく手の冷えしるし
庭土間にころがし置ける泥芋にはや蟋蟀のこもりて啼くも

黄昏の中の顔

山形良和

髪亂れ夜道歸るに耳たれし瘦犬どこまでついてくるのか
砂ほこり吹き立つ街の丘を越え歸り來にしが寂しくてならぬ
飛び止まぬ蠅に閉きし窓の外たれ込めし灰色の中太陽
櫃のまゝ飯食らひを夕ひかりうすれし下宿の部屋に腹ばひ
赤き旗振りぬし君をさびしみて砂吹く葦の坂下るなり

細雨

村上正名

燈が入りし野づらに土の香をかぎつ家路に向ふや、つかれたる身に
うどん屋の赤い行燈がにじんどうつる汽車は田舎の小驛にとまる
汽車の窓に細い雨が糸を引く冬にしては温かい夜
潮の香がふつとして來た海も近いわづかに萌える麥苗の丘
前に居て石中先生行狀記を讀む黒き服装の女まぶたにほろろがある

夕焼

大元敬子

かぜこもり今日も暮るゝと縁に出て雲の焼くるに手をかざしみつ
熱き鴉今宵二匹を食べ給ふ春は間近く父癒ゆならむ
ふすま越しに客間のひと話ししるしが蒲團かむりて切れぬ痰とる
爪いじり激しき言葉聞きてゐし海の見ゆ窓裏き夜は戀ほゆ
湯ぶねにてつきくあぶくを作りみる正月も一日去にしまひき

母

羽野光子

灯を入れてにはかに昏るゝ冬の街ゆきみだれ合ふはやき聲音
母とわが朝顔の煙ながれゆきかくてまづしき一日はじまる
鋭りたる心なきゆく厨べにひとつひとつの食器をみながら
老いほそる母の眠りをかたはらはらに目守りゐる子の心しられず
わが上に迫るひとつこの決断をおそれつゝ又未來をおもふ

夕

津田ゆき

冬に入りて日差し變れば窓にはりし陽除けの新聞紙今朝ははがしぬ
背すじにいたく疲れはあれど冬の灯に寄りてかく醫療券下附款願書
霧ふかく對岸の灯の見えぬ夕べは窓とさし早めに湯タンポをわかす
灯の下に集いて歌ふ讚美歌よ吾も歌ひつゝ癒えをめしと思ふ
久々に出る夕拜なり一年を病みてゆかざりしと歩みつゝ思ふ

習作 向井秀男

けふ明日にかなふすべもない
小さな望みをほろ苦く嚙んで
やがて互ひに長生きしようといふ。
青い海の彼方
故里の山やまに 淺間を描きました
左は赤い商館
波の上に白帆が見えます
一ツ 二ツ
バランスは
右にすんなりした艶美な肌のあなたを
そして櫻貝と蟹を
私は馬と自轉車が好きです
日が暮れました
月が西より出た かうもりが飛ぶ
モチーフは
これでいゝ、いゝのです
私は太陽を持たない。

御賛助芳名簿

三原市市公	三原市市選	三原市市農	三原市市地	三原市市新	三原市市新	三原市市役	三原市市商	三原市市農	三原市市新	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

三原市市議	三原市市選	三原市市農	三原市市地	三原市市新	三原市市新	三原市市役	三原市市商	三原市市農	三原市市新	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

三原市市議	三原市市選	三原市市農	三原市市地	三原市市新	三原市市新	三原市市役	三原市市商	三原市市農	三原市市新	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

(順序不同)

三原市市議	三原市市選	三原市市農	三原市市地	三原市市新	三原市市新	三原市市役	三原市市商	三原市市農	三原市市新	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

三原市市議	三原市市選	三原市市農	三原市市地	三原市市新	三原市市新	三原市市役	三原市市商	三原市市農	三原市市新	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

三原市市議	三原市市選	三原市市農	三原市市地	三原市市新	三原市市新	三原市市役	三原市市商	三原市市農	三原市市新	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製	三原市市製
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

本誌發刊に當りましては、特に御賛助を賜り深謝致します。
 紙上を以て恐縮でありましたが敢えず厚く御禮申し上げます。
 昭和二十五年三月五日
 観光三原地誌 主幹 楠 務



編輯後記

※一九五〇年は、なにかわれわれに希望の暗示を與えたようであつたがそれは生やさしい行路を通つての意では決してなかつた。關を越え、峠を乗り切つてしまわなければならぬわれわれの姿であつたからである。一人一人の眞價が欲求される。個人々々は研究と努力を積まなければ社會に立てない。つまりは平和國家再建は駄目だと言ふ結論を生み出してくる源が、小さな私生活から始つてゐることを悟らねばならない。

※年頭一週目、本誌發刊の企てを練つた。三原に於て三原のこゝがわからない市民が大方で、ましてや三原を世に紹介しようとした材料は皆無と云つてよい古い歴史を持つ三原、新興都として發展の條件を具備した三原の宣傳育成は誰もしない。狭い三原の枠に立てこもり、顔なうつ伏せてコッソツ、ブツブツと其の日暮しと云ふのが素描である。

※觀光三原の紹介、商工農産業の躍進、市民常識の涵養、文化の向上と言つた盛澤山の目的をもつて、計畫來約二ヶ月を経て漸く編輯を終りましたが、ふりかえつてその不手際な驚くの外はありません。ゾッ素人である私の無力の結果でありますので、御叱聲

なお將來の御指導を賜らんことをのみ、こゝにお願ひ申し上げます。

※本誌發刊に當つて、直接間接御贊助御教導を得た三原市役所、商工會議所、其他諸官衙諸團體の方々に厚く御禮申し上げます。また誌上勇頭を飾つて下さつた廣島大學三原分校主事林頼二郎氏、眞田秀吉博士、圖書館長藤原豊一氏、筑紫中眞教諭、向井秀男画伯、大木辯護士各位に對し、深甚の謝意を表します。

※各界諸名士の御執筆については、公務を割いての御無理な強い、洵に申譯ありません。紙面の都合で相當カットしました點御了承下さい。

市内業界においては進んで産業案内に御加盟下さつて、本誌出版に御協力を賜り深謝致します。

※觀光三原地誌は、市内各階層の御熱投によつて一九五〇年版を刊行したのでありますが、更に研究を重ね來春初頭第二號を發刊致したいと考へて居りますので重ねて御協賛下さるようお願いいたします

※編輯を終え、約二ヶ月の間に私が直接觸れ、感じ見ました三原生活の断片を御紹介させよう。

※政治はグループにさらわれ過ぎて、個人の眞價が現れたい。官公吏は静かだが、元氣がありません。商業者は團結と研究が必要として金融と税金の明朗化が望ましい。農業界は矢張りまらまち、一日も早く農民を救つてやつて下さい。工業の躍進を期待すると共に、労働者、失業者の救済は急務であります。

(主幹・楠登記)

觀光三原地誌 一九五〇年版
定價金八拾圓

昭和二十五年三月一日印刷
昭和二十五年三月十日發行

編輯發行人 楠 務

印刷人 三好啓義

印刷所 三好印刷所

三原市本町一、四〇〇番地
(電話 二二二番)

發行所

觀光三原地誌編輯所

三原市港町三三六ノ二
(電話 二一〇番)

本誌販賣について

※各種團體の取纏め御注文に應じます。この場合は御價格でお渡し致します。

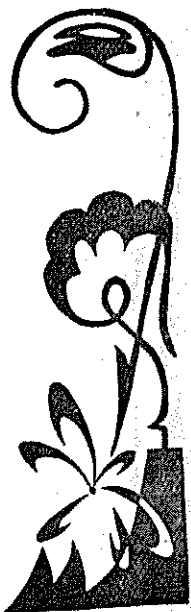
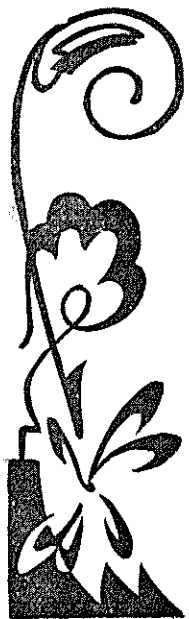
※本誌普及のため、市内外販賣員を募集します。

※希聖者は編輯所發行人宛御照會下さい。但し販賣員は市内外に精通し、市内保證人を要します。

※ ※ ※

觀光三原地誌附録

三原産業案内



三原商工會議所 議員名簿

氏名	住所	職名及業種	電話番號
三好 常造	三原市西町	木材販賣	三五〇
吉原 眞造	三原市西町	小間物化粧品販賣	二一〇
徳永 源吉	三原市本町	ミシン機械販賣	一〇〇
土手 大志	三原市岡一町	飲食物販賣	二〇〇
佐藤 光男	三原市本町	酒販賣	二〇〇
前崎 浩	三原市本町	日本通運株式會社三原支店長	二〇〇
松浦 良登	三原市本町	衣料品販賣	一〇〇
七寶 豐	三原市本町	織品販賣	三〇〇
松本 義雄	三原市本町	食料品販賣	三〇〇
眞田 郎	三原市西町	三原纖維製品商業協同組合理事長	三五〇
中本 勘	三原市東町	寫字樓	三五〇
松野 久義	三原市本町	木炭販賣	二〇〇
芝邊 久義	三原市西町	菓子製造	三五〇
山邊 萬龜夫	三原市本町	帝國人造絹絲株式會社三原工場長	三五〇
上田 政登	三原市本町	印刷業	三五〇
大島 市助	三原市本町	土木建築業	三五〇
播磨 定次郎	三原市和町	運搬業	三五〇
多賀 祐重	三原市系崎町	中日本重工業株式會社三原車輻製作所長	三五〇
三原市長 戸田 勝己	三原市長	三原市長	
三原警察署長 矢吹 靜夫	三原警察署	三原警察署長	
三原稅務署長 猪原 太郎	三原稅務署	三原稅務署長	
三原市議會議長 小林 憲一	三原市議會	三原市議會議長	
廣備銀行三原支店長 大塚 司郎	廣備銀行三原支店	廣備銀行三原支店長	
廣島縣三原土木出張所長 星 野 貞夫	廣島縣三原土木出張所	廣島縣三原土木出張所長	
中國銀行三原支店長 桑 田 利則	中國銀行三原支店	中國銀行三原支店長	
三原公共職業安定所長 石 田 從三	三原公共職業安定所	三原公共職業安定所長	
三原市商工課長 中 村 義雄	三原市商工課	三原市商工課長	
三原市信用組合長 內 海 勝	三原市信用組合	三原市信用組合長	
米崎 騏 長 大 壁 猛 雄	米崎 騏 騏	米崎 騏 騏	
淺野樹脂工業株式會社社長 森 本 糸 逸	淺野樹脂工業株式會社	淺野樹脂工業株式會社社長	
三原郵便局長 中 原 春 夫	三原郵便局	三原郵便局長	
三原勞働基準監督署長 田 中 圭 夫	三原勞働基準監督署	三原勞働基準監督署長	
三原勞政事務所長 井 原 圭 夫	三原勞政事務所	三原勞政事務所長	
三原市議會 內 海 勝	三原市議會	三原市議會	

三原青年商工會議所 役員名簿

役 員	職 名	住 所	電 話
會長 中本 勘	會長	東町(電七四番)	
副會長 三好 啓二	副會長	西町(電五一七番)	
理事 村上 正男	理事	本町(電二八番)	
總務部長 尾本 晃三	總務部長	本町(電五六番)	
商業部長 樽崎 寛一郎	商業部長	本町(電一番)	
工業部長 佐賀 威	工業部長	港町(電五五七番)	
理財部長 高下 畑 庄一	理財部長	本町(電七二番)	
交通部長 黒 瀬 宗一	交通部長	米崎町(電一四番)	
社會部長 花岡 敬孝	社會部長	館町(電一二三番)	
糸崎支部長 濱 中 式 彦	支部長	糸崎町(電七番)	
東部支部長 村上 良三	支部長	東町(電一三二番)	
本町支部長 光 川 不二夫	支部長	本町(電三〇一三番)	
西部支部長 大名 保	支部長	西町(電五四八番)	
臨港支部長 小松 守	支部長	臨港町(電八二番)	
監事 原 三郎	監事	糸崎町	
事務局長 磯 谷 春 夫	事務局長	磯 谷 春 夫	
總務課長 竹 內 善 三郎	總務課長	竹 內 善 三郎	
業務課長 山 田 弘 造	業務課長	山 田 弘 造	
會議所事務局	會議所事務局	三原市館町 電話(四二七〇番)	
監事 大 戸 順 一	監事	西町(電二三四番)	
事務局長 赤 野 嘉 巳	事務局長	港町(電二六番)	
事務局 三原商工會議所內	事務局	電話(四二七〇番)	

所 務 事 諸

刑事、民事、商事

辯護士 **大木 幾馬**

事務所 三原市東町四五四

役員

世話人

副會長 三原 猪之原 忠
 會長 三原 猪之原 忠
 庶務部長 三原 猪之原 忠
 會計部長 三原 猪之原 忠
 農政部長 三原 猪之原 忠
 技術部長 三原 猪之原 忠
 三原市農村青年新興會
 事務所 三原市役所農林課
 三原地區 森下 正規
 西野地區 山本 明
 田野浦地區 森安 修三
 中之町地區 久保 精三
 須波地區 伊藤 義次
 木原地區 谷野 正人
 三原市役所農林課
 山根 正男
 岩本 茂樹
 迫井 實雄
 三永 佐年

三原酒販協會

三原市本町
電話 八六番

裁判、登記、會社設立等
に關する一般事務取扱

司法書士 **田坂 昇事務所**

事務所 三原市港町五一〇
電話 三七九番

裁判所諸手續
不動産登記
戶籍其他一般

司法書士 **清水 清事務所**

事務所 三原市港町帝人通(市役所前)

廣島法務局長認可

司法書士 **村上 一雄**

三原市西町一三一六番地
電話 四五番

所長 **有森 樟爾**

財團 **鐵道弘濟會糸崎業務所**

事務所 糸崎 驛構内
電話(糸崎)二九番

主なる業種

- 一、授産援護
- 一、義肢製作修理相談所
- 一、弘濟會生命保險部
- 一、驛賣店立賣り部

福山 河内間
(吳線)竹原間
(福塩線)府中問

會長 **丸山 コトヨ**

三原助産婦會

事務所 三原市本町七〇四
電話 三一二番

市 內 官 公 衙 案 內

名 稱	所 在 地	代表者氏名	電話番號	名 稱	所 在 地	代表者氏名	電話番號
三原市役所	三原市港町	戸田 勝巳	550	三原市警察署	三原市本町	矢吹 静夫	108
三原公共職業安定所	三原市 箱町	石田 從三	381	三原市消防署	三原市本町	日野 俊二	515
三原労働基準監督署	三原市 箱町	田中 圭二	459	農林省食糧事務所 三原出張所	三原市一町	添田 政雄	543
三原勞政事務所	三原市 城町	井原 逸人	458	農林省農業改良 相談所	三原市一町	岩城 一二	418
三原稅務署	三原市宮沖町	猪原 太郎	514	三原 驛	三原市 城町	粕谷 十郎	53
廣島法務局	三原市 東町	夜船 津都夫		三原 驛	三原市糸崎町	大柴 猛雄	25
農林省作物報告 事務所三原出張所	三原市 箱町	大迫 禮三	420	須波 驛	三原市須波町	口中 茂	270
日本賣公社 三原出張所	三原市 城町	村上 時雄	247	三原商工會議所	三原市 箱町	吉永 龍次郎	420
配炭公園三原出張所	三原市糸崎町	小林 正男	117	三原郵便局	三原市港町	小林 揚二郎	502
縣立保健所	三原市宮沖町	永田 三六	426	糸崎郵便局	三原市糸崎町	三熊 盛人	0
廣島縣 三原上木出張所	三原市宮浦町	高田 庭和龜	169	東町郵便局	三原市東町	吉田 公司	416
廣島縣 三原財務出張所	市役所内	作田 太郎	580	三原本町郵便局	三原市本町	杉江 通一	463
廣島縣 三原建築出張所	市役所内	橋崎 博	550	曙町郵便局	三原市曙町	吉永 淳太郎	417
食糧配給公團 廣島縣三原支所	三原市港町	永井 勝美	306	須波町郵便局	三原市須波町	吉田 公司	0
三原市圖書館	三原市 箱町	藤原 覺一	394	田野浦郵便局	三原市和田町	森本 萬榮	0
				糸崎本通郵便局	三原市糸崎町	貞田 卓爾	2
				三原市立中央病院	三原市東町	市 長	23

食糧配給
團 **廣島縣三原支所**

三原市港町
電話二〇六・四三二番

支所長 **永井 勝巳**
配給課長 **梅田 準三**
經理課長 **池田 政雄**
兼庶務課長

食糧配給
團 **廣島縣支局主食輸送指定**

廣島食糧株式 **三原出張所**

所長 **正田 春三**

三原市港町
電話 五五五番

農林省指定倉庫
トラツク・機帆船輸送
精米・精麥工場

院 病 內 市

院長 恒遠雄碩

三原市東町
電話二二三番

院長 原田三樹男

三原市圓一町
電話三五〇番

院長 大井正臣

三原市糸崎町
電話二一七一番

院長 田中壽巳

三原市城町
電話六二番

院長 黒谷英一

三原市糸崎驛前
電話五九番

院長 芝辻政雄

三原市東町
電話一六二番

組合長 理事 上野原滿次
三原市圓一町
電話四一八番

三原生活協同組合

三原市帝人通り
電話二一〇七八番

三原纖維製品商業協同組合

三原市西町
電話三〇九番

組合長 理事 内島英俊

三原市木原町
電話糸崎七八番

三原市農業共濟組合

事務所 三原市役所農林課内
電話五五〇番

三原市森林組合

三原市役所農林課内
電話五五〇番

組合長 理事 寶子丸三郎

三原市西野町
電話五七七番

三原食料品商業協同組合

三原市港町
電話三八九番

理事長 田邊一夫

三原市本町
電話一二一番

組合長 理事 式部實

三原市宗郷町

三原木材協同組合

三原市港町
電話四三四番

三原金物商組合

三原商工會事務所内

合 組 諸

揃つて健康・舉つて再建!

三原市醫師會
三原市齒科醫師會
三原市藥業協會

三原市醫師會

(順序・會名簿順)

耳鼻咽喉科 稻泉暢三 電本 四七番町	耳鼻咽喉科 稲田達三 電本 七番町	耳鼻咽喉科 小兒科 X線科 金尾覺一 電本 七五番町	産婦人科 占部博 電本 三三番町	外科・眼科 産婦人科 犬養仙 犬養雪江 本町 電三二番	眼科 片山雄 電東 一八五番町
外科 皮膚泌尿科 黃田克巳 電本 一九番町	小兒科 小兒科 小兒科 小林良輔 本町 電二三番	小兒科 小兒科 小兒科 吉岡節枝 本町一、四七三番地	耳鼻咽喉科 坂井豊 電本 三三番町	外科 土肥靜清 電箱 三四番町	内科 富田廉三 電東 一五九番町
産婦人科 森忠男 西 六七番町	小兒科 眞田正 電本 二七番町	皮膚泌尿科 土肥賢一 電箱 三四番町	小兒科・内科 皮膚泌尿科 行武則正 電東 二七二番町	小兒科・内科 皮膚泌尿科 兒玉善造 電東 一八五番町	
内科 山崎松巖 東町二七番地	産婦人科 坂田勝人 西町一、二四一番地	皮膚泌尿科 福井信立 電本 二〇二番町	内科 東義直 糸崎町 電糸崎二〇番	全科 永井末松 須波町 電須波一六番	
小兒科 神原英男 電西 一二〇番町	内科 川西弘 電西 二五三番町	眼科 原田保基 電港 九番町	内科・小兒科 皮膚泌尿科 安田友文 糸崎町 電糸崎六八番	皮膚泌尿科 眞田篤郎 東町三八六番地	
内科 篠山誠之 篠山信成 電西 二二七番町	小兒科 郷田靜夫 電箱 三四番町	皮膚泌尿科 柴田八郎 電旭 五二五番町	小兒科 田村節夫 電須波 九番町	事務所 三原醫師會館 本町妙正寺坂 電話二八三番	

内科 山崎松巖 東町二七番地	産婦人科 坂田勝人 西町一、二四一番地	皮膚泌尿科 福井信立 電本 二〇二番町	内科 東義直 糸崎町 電糸崎二〇番	全科 永井末松 須波町 電須波一六番
小兒科 神原英男 電西 一二〇番町	内科 川西弘 電西 二五三番町	眼科 原田保基 電港 九番町	内科・小兒科 皮膚泌尿科 安田友文 糸崎町 電糸崎六八番	皮膚泌尿科 眞田篤郎 東町三八六番地
内科 篠山誠之 篠山信成 電西 二二七番町	小兒科 郷田靜夫 電箱 三四番町	皮膚泌尿科 柴田八郎 電旭 五二五番町	小兒科 田村節夫 電須波 九番町	事務所 三原醫師會館 本町妙正寺坂 電話二八三番

三原齒科醫師會

(イロハ順)

<p>稻田杏坡 本町(電)七番</p>	<p>西信優 西町一、二六九番地</p>	<p>沖野泰太 本町(電)六三番</p>	<p>尾形菊雄 館町一、五九八番地ノ三</p>	<p>奥野範一 東町(電)五三二番</p>
<p>海田義雄 港町(電)三七四番</p>	<p>田中襄 港町(電)三七七番</p>	<p>辻確郎 糸崎町五、五〇二番地</p>	<p>永井幸四郎 永井幸八郎 本町(電)三六四番</p>	<p>日下義人 本町七二七番地</p>
<p>松本正喜 東町四五二番地ノ一</p>	<p>赤尾潔 本町(電)一一一番</p>	<p>坂井哲 本町(電)四〇一番</p>	<p>岸田恒樹 本町(電)二七七番</p>	<p>三宅幸夫 西町一、三一五番地</p>

三原藥業協會

(順音十五)

<p>青木藥局 本町一、四五四 電話九四番</p>	<p>關西藥局 城町前 電話四九一番</p>	<p>竹内藥舖 糸崎町三、八八二</p>	<p>中光誠光堂 糸崎町五、五〇六</p>	<p>平和藥局 西町四丁目順勝寺前</p>	<p>みなと藥局 糸崎町青木四ツ角</p>
<p>有田藥舖 西宮町四〇五</p>	<p>壽藥局 糸崎町壽町</p>	<p>タлма藥局 本町一、五六四劇場横 電話四一三番</p>	<p>株式會社 檜崎商店 本町一、四四八ノ一 電話一六六番</p>	<p>水シ製藥三原支部 玉浦商店 港町二、二〇六 電話一六六番</p>	<p>森保商店 本町一、五六四劇場下</p>
<p>糸崎藥局 糸崎町本通り 電話糸崎一三〇番</p>	<p>白井藥房 新港町市役所前</p>	<p>中央藥局 本町一、四七八太平館通り 電話三二九番</p>	<p>須波町 西原藥房</p>	<p>本町藥局 本町一、四一七 電話四〇二番</p>	<p>山田藥品商會 港町六九九</p>
<p>エビス藥局 本町七一二 電話三二二番</p>	<p>第一藥局 港町六三三</p>	<p>常盤藥房 本町一、五四六</p>	<p>林司命堂 西町一、三一七</p>	<p>三原藥局 東町一丁目四四二</p>	<p>縣藥劑師協會三原支部 本町一、四八ノ一 電話四一三番</p>

各

種

學

毎月五日生徒募集 師範科・研究科
本科・速成科
ドレスメーカー

土屋洋裁研究所
所長 土屋眞千子

毎月五日・生徒募集

三原ドレスメーカー女學院

東京ドレスメーカー女學院師範科出身

院長 山内里子
教師 永田量子
三原市城町・曙前日通備南一丁

紳士服・學生服・婦人服

毎月五日・生徒募集

府中高等洋裁學院三原出張所

院長 秋山新爾
三原市宮沖町

本科 六ヶ月修業
研究科 六ヶ月修業

三原文化洋裁専門學校

校長 古寺マサ子
三原市本町新通リ

茶

茶卸小賣 銘茶平野園茶舗
三原市本町中央通り警察署前
電話 二三三五番

レイトン油繪具・水彩系のぐ
さくら水彩系のぐ・クレヨン・クレパス
第一不透明水彩系のぐ
高級手藝ペインテツクス

柳井合掌堂商事部
三原市本町警察署隣

生花教授相談所

洋花・生花材料

松浦生花店
三原市本町警察署西隣
電話 三〇八番

校

案

内

本科 六ヶ月
師範科 六ヶ月
研究科 一ヶ月

三原誠和洋裁女學校

校長 蔦省三
三原市西町三丁目

紳士服・婦人服・幼兒服

毎月五日 生徒募集

備南高等洋裁女學院

三原市館町六〇二

校長 稻田達三

(二ヶ年修業)

三原看護婦學校

三原市本町
電話 二八三番

毎月八日・生徒募集

(入學案内・要郵券)

山陽タイピスト専門學校

三原分學校
三原市本町二丁目

小間物・専門化粧品店

有名化粧品
婦人用雜貨
婚禮用品

不二屋
三原市本町一丁目
電話 三〇一番

資生堂チエイン・ストア

資生堂チエイン・ストア

有名化粧品
小間物雜貨
紅屋
三原市本通三丁目

資生堂チエイン・ストア

有名化粧品
婦人小間物
洋品雜貨
みきや
三原市帝人通り

フェノール系
合成樹脂 { 尿素系
積層板・棒・管・成型粉・ワニス

浅野樹脂工業株式會社

社長 森本 条 逸
三原市西野町
電話 (三原) { 1160
 { 140
本社・東京支店・大阪
販賣店 浅野物産株式會社

廣島縣指定魚市場
廣島縣指定荷受機關

糸崎水産株式會社

社長 高見 茂吉
三原市糸崎港
電話 一七三五番

創業明治十年
綿帆布各品種製造

倉田帆布製織工場

代表 倉田 新助
三原市本町一七九六番地
電話 二三一一番

港灣運送業

尾三港運產業株式會社

糸崎支店
三原市糸崎町
電話 一四三番

社長 勝村善四郎
廣島縣燃料株式會社

三原營業所
三原市港町
電話 二二三番
四五二番

モーター修理専門工場
トランス

帝國物産株式會社

三原市城町(三原驛前)
電話 四九〇番

布バンド製造・各種布批製造
足袋製造・各種雜貨製造

大一工業有限會社

代表者 半田 勝也
(榮造改メ)
三原市西町一、〇二五番地
電話 一八七番

山陽線糸崎驛 (廣島縣糸崎驛區内)

船車連絡貨物は断然糸崎へ

備後通運株式會社

糸崎支店

受信略號 イトサキ〇ツウンソテン
電話 代表 (糸崎) 五五五番
發送、作業 五五五番
到着、自動車部 一一二番
電話 (糸崎) 經理、庶務 一一二番
小口關係 一一二番

土木建築設計監督請負

木材生産・販賣
建設資材販賣

三原興業株式會社

取締役社長 三好 常造
三原市西町九八三
電話 (一八二) 七番

アサノ・セメント販賣

海陸運送取扱

日本セメント株式會社專屬販賣店

日東運輸商事株式會社

社長 大塚 光造
三原市糸崎町
(日本セメント會社管内)
電話 (糸崎) 五八番

倉庫業 農林省指定倉庫
證券發行許可

糸崎倉庫土地株式會社

三原市糸崎町五九二四
電話 (糸崎) 二八番

倉庫	二、五〇〇坪
野積場	二、〇〇〇坪
鐵道引込線	三五〇米
岸壁	三〇〇米
起重機(移動式)	一基

所長 藤本 伊郎

廣島縣木材株式會社

三原出張所

三原市港町
電話 一六番

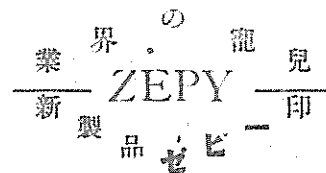
倉庫業

川西倉庫株式會社

糸崎出張所

三原市糸崎町五六二九
電話 (糸崎) 四九番

營業品目
各種塗料製造・ペイント
ラッカー・ワニス・パテ製品



朝日樹脂工業株式會社

三原市宮沖町588
電話(三原) { 3 9 7 / 4 9 7 }

トヨタ自動車三原地區代理店
各種自動車修理並ニ部分品販賣
東亞車檢工業株式會社
三原營業所
所長 神谷律治
三原市港町
電話 二〇九番

鋼材・工具・機械
木車・金物・ボルトナット
三原鋼材株式會社
社長 神前喜一
三原市本町新通
電話 四〇六番

廣島縣施設農業協同組合中部修理指定工場
日通三原支店
三原車輛課
本郷營業所 修理指定工場
河内營業所

各種自動車修理
株式會社 三原サービスステーション
取締役社長 松山新次郎
三原工場 三原市館町六〇二
河内工場 豊田郡河内町

タイハツ三輪車三原地區代理店
各種自動車販賣修理

有限會社 白米工業所
代表 白米正道
三原市港口
電話 五八四番

九九印機寸
九印機寸
羊印機寸
鴨印機寸
各種ロープ系物
木製竹製
マッテチ石製品
ロソク線香
農薬用品一式
中國總代理店

山名商事有限會社
三原市港町六二一
電話 五四一

廣島縣公認

鮮魚加工水產物荷受機關

三原水產株式會社

三原市港町八四九
電話 二一一番

醫理化學用硝子

並に一般硝子製品

三都ガラス工業株式會社

三原市圓一町一、八三四
電話 三五〇番

廣島縣登錄(イ)第一八一號
土木・建築・設計・施行

株式會社 大榮組
取締役社長 田野浦嘉作
三原市港町二、二二二
電話 四八三番

土木建築設計施行請負

山陽建設株式會社

取締役社長 伏見貞雄
三原市港町六二一
電話 四三〇番

農林省契約工場
製粉・製麵・麩・養豚

山陽製粉株式會社

社長 眞島範春
三原市圓一町一、八三四
電話 三原局 五二二番

土木建築請負

三洋建設有限會社

三原市港町
電話 四九六番

合成樹脂・天然樹脂

日東化學株式會社

三原市港町六二一
電話(三原) 原五七番
夜間専用 二九五番

石炭・コークス・煉炭販賣

南商事株式會社

代表取締役 南政吉
三原市糸崎町
電話 三九八番

引揚復員誠心の集

復揚組

三原市本町
電話 四三一番

躍進諸會社案内

No. 3

廣島縣登録第一八七號

土木建築・設計・監督施行請負

三原土木建築株式會社

取締役社長 原 敷 一

三原市港町六〇三ノ九
電話 三六七番

各種自動車並に諸車タイヤ
再製修理

通産省指定工場

東洋ゴム工業株式會社

社長 西 田 茂 一

三原市四一町一、八九九
電話 五七二番

醫藥工業藥製造

關西製藥株式會社

社長 出 田 魏

營業部 三原市三原駅前(電四九一番)
工場 三原市須波西町(電須波四番)
薬局部 三原市三原駅前藥局

農林省契約工場

大戸精麥所

三原市四一町
電話 五六九番

農林省契約工場

高崎精麥所

代表 高崎卓藏
三原市東町
電話 二〇八番

農林省契約工場

糸崎食糧工業株式會社

三原市糸崎町
電話(糸崎)五四番

最高の搾油設備

品質を誇る最優秀精製

三原興業株式會社

社長 大 藤 實

三原市東町三五一
電話 三五番

建築請負業
製材業

三共建築工藝株式會社

三原市城町(三原驛前)
電話 二二四番

市内著名店の紹介(一)

各種ポンプ製作
各種鑄造品製作

製罐工事一切並ニ各種配管工事請負

七寶工業所

七 寶 豊

三原市本町一、四七一番地
事務所 二一九番
機械工場 三七〇番
鑄造工場 四八八番
電話

信用・誠實

吉井吳服店

吉 井 貞 夫

三原市本町通り一丁目

登録番號一八九號

土木建築請負・設計施行

並ニ砂利販賣業

大島組

大 島 市 助

三原市城町六〇三・驛前通り
電話 四五六番

美術看板のトップを行く!

カンバンと塗装

各種肖像畫

中島畫房

三原市本町一丁目
中 島 一 正

市内著名店の紹介 (二)

各種果物・卸小賣

土井果物店

三原市帝人通り
電話 七九番

國鐵指定

驛辨當・名物鯛の濱焼

濱吉商店

三原市糸崎驛前
電話 (糸崎) 七番

營業部 京染部
課 吳服部
目 男女服地部
質 部

有限会社 いいたや吳服京染店

代表者 中田勝二

三原市本町一丁目一五三七
電話 五九〇番

各種高級印刷

三好印刷所

三原市本町
電話 二二番

清涼飲料水製造卸

中島芳太郎商店

三原市港町
電話 四五番

蒲鉾並ニ飲料水製造販賣

佐藤商店

三原市本町魚市場角・電五三〇

清涼飲料水製造卸

村田商會

三原市西町四丁目

清涼飲料水製造卸

カルピス・コーヒー製造

有政綾商店

三原市西町四丁目
電話 一一五番

製造部 卸賣部 小賣部

各種履物と靴に傘

手島履物店

三原市本町三丁目
電話 二七一番

紳士靴 婦人靴 子供靴

古い歴史と新しい技術
真心こめた製品
誠意のある營業

濱崎製靴店

三原市本町
電話 二五二番

市内著名店の紹介 (三)

酒 舗

力石商店

三原市糸崎港
電話 一一五番

文具事務用品専門店

谷口商店

三原市帝人通
電話 四六七番

備南で一つの専門店

坂田赤らん店

三原市本町二丁目
電話(呼)四〇二番

三原本通りの店

イロハ雜貨店

三原市本町
電話 二四四番

服装界のトップモード

洋品・雜貨・紳士靴

西谷服装店

三原市本町中央通り

纖維製品 公認市場
書畫骨董

助六交換會

三原市新港町二、三番地

玩具卸問屋

甲山屋商店

三原市西町本通り
電話 三一一番

常に季節の服装を代表する

婦人子供服専門店

フタバ洋装店

三原市港町中央市場西

各種スポーツ用具専門店

有限 高木運動具店

本店 豊田郡忠海町(電七〇番)
三原營業所 三原市本町警察前(電五八七)

斬新迅速優美・親切本位

紳士婦人服御仕立

梅田衣裳店

三原市西港町七六一番地
(西二番踏切南一丁西側)

三原で唯一の店

HAT
マルゼン帽子専門店

三原市港町中央通
中央市場東隣り

洋品雜貨 専門の店
御贈答品

十字屋洋品店

三原市港町中央通
中央市場東鐵道側

市内著名店

紹介 (四)

茶卸商

阿波屋茶舗

北岡恒正

三原市東町
電話五八五番

最新流行!

婦人生地安價提供

井

今井洋服生地専門店

店主 今井 倫

三原市帝人通り帝國館前

迅速丁寧彫刻

石谷印刷店

三原市本町中通り
電話(呼)一五一番

茶と茶器

花道具

伊勢屋茶舗

南林之助

三原市本町中央通り
電話五八一番

日用百貨

公認市場

三原市港町

醫療器械

松星商會

三原市本町中央通

優等米酢

中間隆一醸造場

三原市西町
電話四五三番

度量衡器販賣所

惠川由雄商店

三原市本町通
電話二八二番

品サービス

櫻履物店

三原市帝人通

藤本信商店

三原市帝人通り
電話五番

本店 松本 春林 上治 宇治
次店 松本 春林 上治 宇治
園 貴香 本桶 茶舗

三原市港町 電話(呼)15番 405番

ラヂオ電蓄

販賣修理

三星社

三原市帝人通り
電話(自宅)四一五番

自轉車販賣修理

三五商會

三原市本町
(松竹座下)

電氣機械、器具、材料、ラヂオ

日本放送協會指定店

柴原電機商會

三原市本町二丁目
電話二四番

教育用樂器取扱店

レコード
蓄音器
各種樂器

山口樂器店

三原市本町一丁目
本町郵便局東隣り

健康の素

朝日養素

講崎幾太郎

三原驛前

書籍・文具

岡田書店

三原市帝人通り

玩具・菓子・日用品

神田商店

三原市帝人通帝國館隣



店主 眞田市郎
電話 三原市西町七〇番

塩谷吳服店

三原市本町二丁目

店主 松浦良登

松浦吳服店

三原市本町二丁目
電話 一九九番

店主 増田俊一

みことや吳服店

三原市本町局前
電話 一二四番

店主 粕谷豊吉

粕谷吳服店

三原市西町三丁目

店主 垣井郁三

壽屋吳服店

三原市本町二丁目
電話 四五四番

羅紗地・裏地卸小賣
紳士服・婦人服御仕立

森明洋服店

三原市西町三丁目
電話 三九〇番

羅紗・裏地
高級紳士服
婦人子供服
大學・高等學校制服
有限社

尾本洋服店

三原市本町
電話 五六番

洋服・羅紗

お氣に召す御値段下！
お氣にいる洋服を

吉田洋服店

三原市港町東寶劇場前
電話 三〇二番

羅紗・裏地

高級紳士婦人服
新型御仕立

久保洋服店

三原市港町東寶劇場前西

既製服 洋服生地

原洋服店

三原市本町松竹座下
電話 三八六番

羅紗・裏地小賣
高級紳士服婦人服御仕立

中原洋服店

三原市港町東寶北隣
電話 五一九番

衣料登錄店

家具商

和洋入道家具

小松家具店

三原市本町
電話八三番

和洋家具・建具

上杉家具店

三原市本町
電話八四番

和洋入道家具
建具一式

丹花木工製作所

三原市本町
電話五二三番

陶磁器商

各種陶磁器卸・小賣

山下陶器店

三原市西町本通り

高級陶磁器

有田焼名舗

有田屋陶器店

三原市公認市場内

陶磁器並ニ荒物類

石井商店

三原市本町局前

焼きす・料理ンモルホ

おホホ 館旅御

三原驛前
電話九五五番



瀬戸内海の名園

喜樂園別館

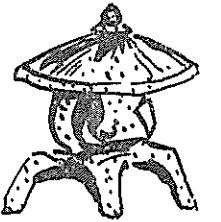
三原市須波町(駅前) 電話須波一五番

御料理・旅館

三原市に誇る名実共一級旅館

喜樂園

三原市本町 電話二八番
園主 村上清市



船員休憩所

船員酒場

三原市本町(第一踏切北)
電話 3 2 5 番

食堂 仕出し 甘黨の店
本町食堂

三原市本町二丁目

高級純喫茶

茶房 藤屋

三原市港町
TEL 4 9 3

大映封切場
帝 國 館
三原市帝人通 電一九〇番

松竹封切場
松 竹 座
三原市本町 電一四二番

アメリカ映畫封切場
三原セントラル
三原市港町 電三四四番

東寶封切場
東 寶 劇 場
三原市港町 電二番

東映封切場
太 平 館
三原市本町 電三三八番

ダンス

氣樂に踊れて 上達迅速
初心者には—特別指導

浮城四葉ダンスクラブ
責任者 立 神 康 介
三原市城町

英國風社交舞踏教習所
M・L・G クラブ
三原市港町市役所北

初心者歓迎

ロビン社交ダンス教習所
三原市仙場町(運輸課の隣)

備南唯一の大衆娛樂場

麻 雀 。 圍 碁 。 將 棋

三原市宮沖町 三原保健所前 浮城クラブ

港	旭	三	第一	敷	宮	イ	切	第二	旭	三原市浴場組合 (公) (衆) (浴) (場) 組合長 赤井信太
湯	湯	原	櫻	島	沖	胡	立	櫻	湯	
糸崎町	糸崎町	東町	東町	本町	宮沖町	西港町	宗光寺下	西町三丁目	西町四丁目	
荒谷武造	木原チヨ	村上政美	徳永荒一	金子義一	村井併三	赤井信太	品はる代	徳永守	田阪慶一	

眺望無比
味覺の園

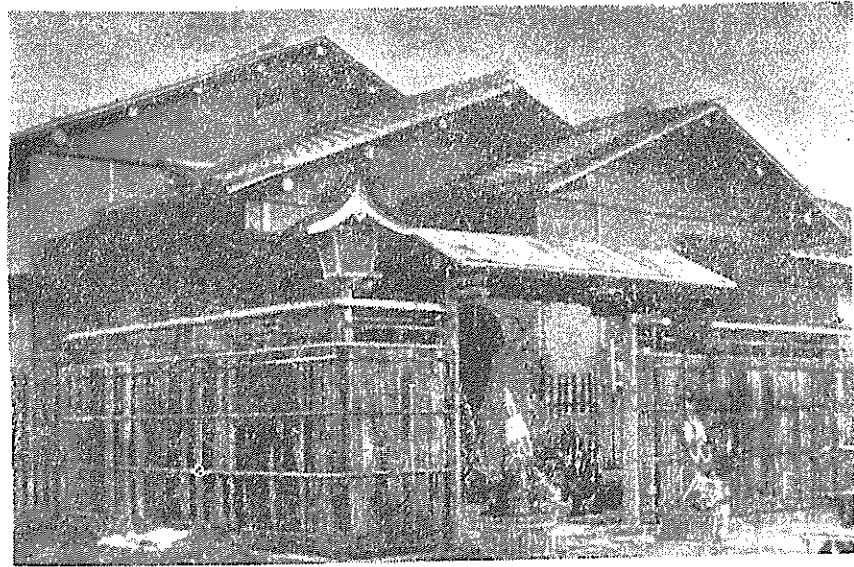
烹割 享樂莊
(共樂亭改名)

三原驛前
電話九六番

KYORAKUSO. kappo.



Miharaminato ~ YOSIKO. KAPPO.



烹割

よ

し

幸

閑靜にして嗜好の御部屋
名産御料理と
岩風呂では三原で唯一



三原市城町

(三原驛前埋立)
電話 一一八番

旅館と御料理

<p>鶴家</p> <p>三原市驛前通 電話 五四番</p>	<p>さなだ</p> <p>三原市驛前 電話 五九五番</p>	<p>喜樂園</p> <p>三原市本町 電話 二八番</p>
<p>喜し店</p> <p>三原市本町 電話 一三五番</p>	<p>寶來館</p> <p>三原市帝人通り 電話 一一番</p>	<p>風月</p> <p>三原市本町 電話 二二四番</p>
<p>清月</p> <p>三原市糸崎町 電話 糸崎一〇四番</p>	<p>竹屋旅館</p> <p>三原市糸崎驛前 電話 糸崎四五番</p>	<p>ともろ旅館</p> <p>三原市城町 電話 一八八番</p>
<p>松屋旅館</p> <p>三原市港町 萬歳酒造北入</p>	<p>壽旅館</p> <p>三原市東寶劇場横 電話 五六三番</p>	<p>田毎旅館</p> <p>三原市館町 電話 五六二番</p>

食通街・喫茶・御案内

甘黨の店

純喫茶
藤屋

三原市港町
電話四九三番

か料き理

川魚料理

かき善

三原市帝人橋上る
電話二八〇番

三原名物 東京壽し
大阪壽し

浪花壽し支店

壽し光

三原市港町
帝國館横

喫茶と食事

チエリー

三原市港町(帝人通り)
帝國館横 電話 448番

御料理

喫茶

小鈴

三原市港町
三原市場横

喫茶

およひ

三原市港町
電話一〇九番

女だけの都

火鍋子料理

福龍莊

三原市本町
電話四三一番

料理
川魚料理

寶屋

三原市本町新通り
電話 529番

おでん
小鉢物

いろは

三原市東豊劇場前
電話 五二七番

珈琲の店

音楽茶寮 小鳥の家

三原市帝人通り
電話 三三二番

大衆食堂

甘黨の店 蜂ノ巣

三原市本町驛西第一踏切
電話(呼)一六一番

味と誠意の店

前驛 やまだ

三原市糸崎町

洋食の店

お気軽に御家族御同伴で

大衆食堂 エンゼル

三原市港町・中央市場前
電話(呼)五二七番

喫茶

料理

美松

三原市胡町
電話 五三一番

一品料理

御酒・中華そば

たぬき庵

三原市港町
セントラル劇場前

静かな階上で……

洋食・御飲物

あけぼの

三原市帝人通り
帝國館前

おでん

季節料理

ちごり

三原市本町新通り

喫茶

みごり

三原市帝人通り

大衆食堂

バカ盛

三原市帝人通り

おでん
飲物

マルエス

三原市港町
帝國館横

技と新鋭・・・美粧院——御理髮

斬新なる技術
パーマネント・ウエーブ

立神美粧院

三原市帝人通

感じよい髪型は！

ハッピー・美粧院

崎丸トミ子
三原市東寶劇場南入

パーマと理髮は

美島理髮院

三原市帝人通り

婚禮衣裳着付

うつりのよいセツト

中野美容院

三原市西町久波小路

最新パーマネント

婚禮着付

寶子丸美容院

三原市本町劇場下

近代美髮は

ゴールド・ウエーブ

ばら美粧院

三原市港町小作路

信重理容館

三原市東町二丁目

吉行理髮館

三原市西港町

岡田理容院

三原市糸崎港口

最新美容の園

大名美容院

三原市西港町

本田理容館

三原市港町御作地

立神理容院

三原市本町二丁目

場眞寫ジフ

町番 9 0 4
市本 原市
電話 三

場眞寫本中

町番 4 7
市東 原市
電話 三

品質優良

店肉精田眞

町番 8 9 2
市港 原市
電話 三

品質優良

店肉精田住


番 2 7 1
街商店通中 原市
電話 三

肉の店

撮影所

諸 療 院

院長 小迫友太郎 小迫電氣療院 糸崎驛前西	院長 上本眞一 鍼灸マツサージ療院 三原市港町 セントラル劇場隣	道柔 ほねつき 二井整骨鍼灸療院 鍼灸 士 鎌 道 柔 士 井 二 道 講 町 館 市 原 三
------------------------------------	--	--

土木建築請負 後藤組 後藤員志 三原市港町(市役所前) 電話 110番	俳句雜誌 春星 發行所 三原市東町462 春星會	觀光 三原地誌 
--	--	--

高級文具 正田文具店 三原市本町 電一七九番	紙・文具・事務用品 トミヤ文具店 三原市本町 電四六七番	各種食料品 松本食料品店 三原市本町 電四二番	食料品・青物 山崎食料品店 三原市帝人通 電三五八番	洋服御仕立・迅速丁寧 弓取洋服店 三原市西港町
機械工具 花岡商會 三原市館町 電一二二番	時計・眼鏡・樂器 山日本店 三原市本町 電二一三番	農機具 キタカワ商會 由水 悦男 三原市宮沖町	大衆食堂 木頃屋 三原市帝人通	日用品・御菓子 岡田商店 三原市館町 東鐵北入

(市) (内) 書 店 案 内 (新) (刊)

上野書店 糸崎驛前	入江書店 館町	よしや書店 三原驛前	浮城書房 帝人通	中川書店 西町
中本書店 糸崎港	並木書店 本町	了カツキ書店 館町	みどり書店 公認市場内	田邊書店 本町

建 材 專 門 店

建築左官材料卸 セメント製品加工製造 戸木建材店 三原市港町二、二二二 電話 二二一番	建築左官材料商 勝村建材店 三原市港町七六四番地	建築左官諸材料卸・小賣 小野田セメント販賣店 ケーソード・煉瓦發賣元 マルキ建材店 三原市港町棧橋前 電話 五二二番
--	---------------------------------------	--

木材

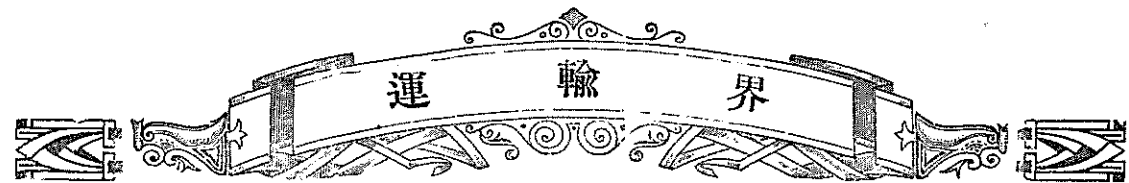


業界

<p>建築用材・造船用材 製材製函・木製品</p> <p>三和木材有限會社</p> <p>三原市港町 電話 四七五番</p>	<p>一般木材・銘木・竹材・建具</p> <p>桶本材木店 同製材部</p> <p>三原市港町 電話 一五〇番 四〇五番</p>	<p>三好材木店 同製材部</p> <p>三原市西町 電話 一五〇番 二〇七番</p>
<p>各種木材販賣</p> <p>赤谷製材所</p> <p>三原市港町市役所裏 電話 四一四番</p>	<p>木材生産販賣 製材一式 土木建築請負</p> <p>有限會社 夜船商店</p> <p>製材工場 三原市宮沖町 三原市港町 電話 二六七番</p>	<p>杭丸太・杭木・ハルブ 一般建築用材一切</p> <p>中川木材有限會社 取締役社長 中川正司</p> <p>三原市帝人通り 電話 二六〇番</p>
<p>建築・造船用材</p> <p>三原木材有限會社</p> <p>社長 藤井元治郎</p> <p>三原市館町(三原驛東) 電話 一八三番</p>	<p>木材・製材</p> <p>勝村材木店</p> <p>三原市港町 電話 一〇二番</p>	<p>建築・製材</p> <p>三共建築工藝株式會社</p> <p>三原市城町(三原驛前) 電話 二二四番</p>

各種事業場

<p>上垣内搾油場</p> <p>三原市西宮町八三三 電話 四一〇番</p>	<p>甘藷・馬鈴薯 澱粉製粉</p> <p>三原食品工業所</p> <p>代表 内海末二</p> <p>三原市中之町三、九三 電話 一八番</p>	<p>製氷冷蔵機 小型冷凍機 精肉店用冷凍機 酒造場用冷凍機 諸工業用冷凍機 アイスキャンデー機</p> <p>富士鐵工所</p> <p>山下積一</p> <p>營業所 三原市中之町四〇二五番 電話 三三〇番 工場 三原市中之町四〇二五番 電話 三三〇番</p>
<p>機械器具・硝子・果實 貿易品・荷造充填用</p> <p>三原木毛有限會社 取締役社長 中川實</p> <p>三原市城町六〇二ノ三八 電話 六〇二番</p>	<p>煉炭・炭團製造元</p> <p>大館商會</p> <p>三原市港町 セントラル劇場前</p>	<p>電氣鍍金</p> <p>電氣メッキ サンドブラスト メタリコン</p> <p>西原メッキ工業所</p> <p>三原市港町六二八</p>
<p>高級化粧品 コニエ</p> <p>コールド・クリーム パニング・クリーム No. 100・ボマード 夢の香・香油</p> <p>大阪・コニエ化學研究所製</p>		
<p>諸官廳・會社・事業場 果樹剪定・消毒・袋掛〜に好適</p> <p>折疊式全金屬製脚立梯子</p> <p>東京・株式會社 關東製作所製</p>		



輸送貨物の引受幹旋

三原地區機帆船事業協同組合

理事長 原 初 太 郎

三原市港町帝人通 電話 446 番 466 番

三原瀬戸田方面定期航路
各方面海上貸切船御利用

三原海運有限會社

代表 山本 文達
専務 鎗屋 留
常務 徳井 功

三原港・電四六一番

三原—因島—鷺島方面
定期航路

各島嶼部行一般荷客取扱

土居回漕店

三原市港町
電話 四七八番

各港行海上貨物取扱

理事長 道原 光次

三原小運搬業協同組合

三原 港
電話 二一〇番

備後海運株式會社

三原營業所

三原市港町
電話 一五八番
三三七番

備後海運株式會社

糸崎營業所

三原市糸崎町
電話(糸崎) 一一九番

超高級日本酒

名譽

醉

心

山根酒造場

三原市東町
電話 二九番

酒界の王座

(旭菊水改名)

酒寶

大

悦

穴藤酒造株式會社

三原市西町
電話 三八番

味覺の王者

酒銘
蘭菊



三原酒造會社

三原市南町
電話 五六番

酒銘 報 亭



三原海酒造場

三原市西町
電話 一六番



NA RA SA KI

PHARMACEUTICALS

醫藥品の卸と小賣

株式會社 檜崎商店

三原市本町一丁目
電話三原一番

青果市場

果 三原青果株式會社

三原市港町八四九番地
電話三原一七七一七四番
二七五番三六八番
電信略號ミハラマルカ

蔬菜・青果卸賣市場



株式會社

三原丸大市場

三原市港町海岸通り
電話三原一四一四一三番

株式會社

中國銀行三原支店

三原市本町
電話一八八番

株式會社

藝備銀行三原支店

三原市本町
電話一六三六番

三原信用組合

三原市本町
電話七二番



燒酎

酒 銘

富貴世界

三原市港町

萬歲酒造株式會社三原工場

工場長 淺尾雄介

日本生命保險相互會社

三原支部

三原市新港町
電話二九九番

明日への希望・一家の幸福
新様式・自由満期保險

最優最大

中小企業者の金融貯蓄

三年無盡!

納税準備・貯蓄 三日掛けて
融通する

日掛無盡!

廣島無盡株式會社

支店長 吉永龍次郎

三原市本町七〇七番地
電話一三九番

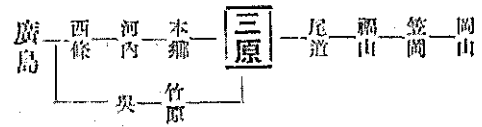


日本通運株式會社 三原支店

三原驛前・電73

營業所	須波營業所 本郷營業所 河内營業所 白井營業所	電 1 7
		所 4 3
荷扱所	田熊(電57) 重井(電24)	土生(電55)
		瀬戸田(電55)

△ 四國行・北海道行 定期船便取扱
△ 貨物自動車(急行トラック便)毎日運轉



電話の御用命	庶務 7 3
	車扱 1 4 小口扱 369
	海運倉庫 484 自動車 477

貨物の輸送は——安くて早い
確 實 な 日 通

海運業 倉庫業 (發券倉庫)

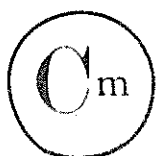
本 社
支店出張所

神戸市兵庫區島上町
東京・大阪・神戸・岡山・福山・尾道・糸崎・三原
吳・廣島・下關・因島・高松・坂田・新居濱・和歌山

加藤海運株式會社 三原出張所

所 長 竹 幸 雄

三原市港町
電話 四五七番

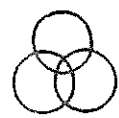


株式會社

三原中央市場

三原市港町中央通り
電話 四四九番

日用百貨
食料品



株式會社

みつわ百貨店

三原市驛前
電話 二一七番

階下百貨部
階上食堂部